

文部科学省「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」採択事業  
新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

# 令和元年度 内部評価報告書

九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学  
熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



# 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

## 令和元年度 内部評価報告書

### 目次

タイトル	ページ
はじめに	2
自己評価一覧	3
九州がんプロ全体の内部評価	4
各大学の内部評価	10
九州大学	11
福岡大学	22
久留米大学	25
佐賀大学	29
長崎大学	33
熊本大学	38
大分大学	45
宮崎大学	52
鹿児島大学	56
琉球大学	60
数値実績一覧	63
セミナー・シンポジウム等	63
満足度調査／指導技術向上等のためのFD／ホームページ・SNS更新	66
教育プログラム・コースの受入実績	67
受験・合格・資格取得者	69

# はじめに

『新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 10 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画するプロジェクトであり、文部科学省が行う『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業の採択を受けて活動しています。

本報告書は、令和元年度（平成 31（2019）年 4 月 1 日～令和 2（2020）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、新ニーズに対応できる人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」  
令和元年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /  
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	b:目標を達成できている
--------	--------------

○各大学の自己評価

九州大学	b:目標を達成できている
福岡大学	c:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	c:あと少しで目標を達成できる
佐賀大学	c:あと少しで目標を達成できる
長崎大学	b:目標を達成できている
熊本大学	(大学院コース) C:あと少しで目標を達成できる (インテンシブコース) d:目標を達成できていない
大分大学	c:あと少しで目標を達成できる
宮崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	b:目標を達成できている
琉球大学	c:あと少しで目標を達成できる

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

作成担当コーディネーター	九州大学 馬場 英司（幹事コーディネーター・北部エリア部会長）
	長崎大学 芦澤 和人（西部エリア部会長）
	鹿児島大学 上野 真一（南部エリア部会長）
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 田中 紀代美

## 1. 概要

## 補助事業の目的・必要性 総論 ※交付申請時の内容を転記（編集不可）

本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 目的・達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

10大学において、計34コース（大学院24コース、インテンシブ10コース）が設置。日々教育が行われており、現在、合計約360名の学生が在籍している。

教員による対面指導はもちろんのこと、九州大学に設置の「eラーニング支援室」を中心として『全国eラーニングクラウド』へ提供する講義の収録・編集・公開も進んでいる（57講義収録完了〈ゲノム13、小児・AYA・希少がん29、ライフステージ15〉）。がんプロ学生はeラーニングシステムを活用し、九州がんプロ内だけでなく他拠点の講義も視聴することで、がんゲノム医療をはじめとした最新情報を得ながら、がん専門医療人となるべく研鑽を積んでいる。

がんゲノム医療に関しては、まだまだ単一大学内のみでの情報収集・教育は困難であるが、今年度は各大学が他県・他拠点等から講師を招き、最新情報の収集・共有に努めた。また、既存の「テレビ会議システム」等も活用し複数大学が共同で講習会等を積極的に開催したことで、補完し合うことができた。

例年実施している「九州がんプロ合同研修会」を、大分大学との合同カンファレンスと合同で「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」として開催した。大分大学が主体となった運営のもと「遺伝カウンセリング」に関する講話や、離島僻地対策、先輩医療人の講演等、新たなテーマを取り上げることができ、参加者アンケートでも8割以上の上の参加者から次回も参加したいとの高評価を得た。



大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会

今後、これまで取り上げていなかった新しい視点のセミナー等を発案・実施することで、更に広くがん医療について発信するとともに、これらにがんプロ学生を積極的に巻き込み、がん専門医療人の教育・養成の強化にも繋げる

今年度は、認定NPO法人 希望の会（胃がんキャラバン）、一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会（AYA教育セミナー）、福岡県（働く世代をがんから守るがん検診受診促進大会）等、自治体やNPO団体等との連携によるセミナー等を積極的に展開し、がんに関する情報発信・普及を行った。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

始動したがんプロコースにおいて、今年度は317名の修了者（大学院24名、インテンシブ293名）を輩出した。各コース学生のうち19名が、各種専門医（外科専門医、血液専門医、消化器内視鏡専門医、放射線科専門医、総合内科専門医、肝臓専門医、消化器病専門医、がん治療認定医）に合格といった実績も徐々に始動しており、今後、がん専門医療人として九州における即戦力となることが期待できる。

また、今年度は「在学生へのアンケート」も実施。ウェブアンケートを採用し、在学生の負担軽減とともに回収率を高めることができた。回答者の約83%から「全体的な満足度」の項目で4もしくは5の高評価を得た。

九州がんプロホームページでは「修了者の声」と題したコーナーに、継続して各大学のがんプロコース修了者（第2期含む）の記事の掲載を行った。計16名の記事を新たに掲載することで、在学生・市民 に対して広くがんプロの情報を発信した。今後、本記事を活用してがんプロコース履修者の リクルートに努めるとともに、記事掲載した修了者と在学生の実際の交流を設ける等して、より具体的なネットワークの構築を行う。

長崎大学では「在宅・地域医療実習」を継続して実施。今年度は5名が参加し、在宅・地域医療を理解しライフステージに応じたがん対策を推進できる人材となるべく地域の実情を学んだ。また、緩和医療をより地域に普及させることを目的とし、今年度も「在宅緩和医療に関する講演会」を開催予定である。

今後、このような各大学の特長的な事例（グッドプラクティス）を拠点内で共有する機会（報告会等）を設ける。

海外先進事例の収集に関しては、九州大学で6月に「韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修」を実施。がんプロの教員2名・学生2名が渡航し、施設見学や韓国側との意見交換を行った。今後も研修形式 をupdateしながら更に意義深い交流企画を目指す。

九州がんプロでは、国内外の様々な医療人との交流機会も活用しながら、幅広い視野と豊富な経験を持つ、今後の日本 がん医療を率いるプロフェッショナルを引き続き育成する。

## 2. 各事業の取り組み状況

### (1) 交付申請書に記載した内容への対応

No	具体的な事業内容 ※交付申請時の内容を転記（編集不可）	実施計画 ※同左（編集不可）
①	教育コース（大学院コース、インテンシブコース）による教育を継続して実施する。	4月～3月 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）を実施。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するため、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を行う。	4月～3月 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を実施。
③	「e-ラーニング支援室」を中心とし、各大学にてe-ラーニング教育コンテンツの作成、提供、維持管理を行う。	4月～3月 「e-ラーニング支援室」を中心として、各大学にてe-ラーニング用コンテンツを継続して作成・公開。
④	本プランにおける取組、成果を開示して広く国民の理解をいただくため、また継続的な履修生確保のため、各大学や本プランのホームページを継続して運用し、情報発信を行う。	4月～3月 各大学、本プランのホームページにより情報発信を行う。
⑤	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」を開催する。	5月、2月 「事業運営推進協議会」を開催。
⑥	各大学において、また、各エリア内の大学等が協働し、新ニーズに関するシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施する。	4月～3月 各大学にてシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施。11月 複数大学の協働による市民公開講座を実施。
⑦	本プランの参加大学共同による研修会を実施する。	1月 九州がんプロ全体研修会を開催。
⑧	国内外医療機関との連携教育や交流活動を実施し、がんゲノム医療をはじめとした連携体制の構築を継続する。	6月～12月 海外医療機関への訪問研修実施。 国内他拠点との相互リトリート実施。4月～3月 各大学にて国内外医療機関との連携教育や交流活動を実施。
⑨	小児・AYA世代がんの緩和医療に関する講習会を、各大学または大学間連携のもとで実施する。	6月、9月、1月 小児・AYA世代がんの緩和医療に関する講習会を実施。10月 連携大学間のテレビ会議システムによる「小児緩和医療講習会」を実施。
⑩	履修生の今後のキャリア形成支援等を目的として「先輩医療人による講演会」、「男女共同参画に係る講演会」を実施する。	8月 先輩医療人による講演会を実施。1月 男女共同参画に係る講演会を実施。
⑪	事業の進捗状況を評価するため、外部評価委員を九州に招き外部評価を実施する。	2月～3月 外部評価委員を九州に招き外部評価を実施。

No	実績 ※1～2行程度で簡潔に記述	成果（学生教育の観点での成果について記載）※同左
①	大学院24コース、インテンシブ10コースにて学生を受入。	約360名が在籍。修了者317名を輩出。7コースにおいて当初の受入目標を上回った。
②	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集および進捗管理を行った。	事務局スタッフが各大学と密接に連携し、各種研修・講習会等に多くのがんプロ学生を動員することができた。
③	eラーニング支援室専任スタッフおよび各大学担当教職員のもと、eクラウド用の講義収録等を実施した。	合計57の講義を収録完了した。現在随時、編集・公開作業を進めている。
④	九州大学の事務局スタッフが各大学の情報収集・発信を行った。	計約50回の記事掲載・更新を実施。SNSも活用し約120回の投稿発信を行った。
⑤	今年度は合計4回の会議（予定含む）を実施し、事業運営について協議した。	テレビ会議・メール会議も活用し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
⑥	各大学でのべ77回シンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座を実施し、4213人の参加を得た。	新ニーズに関するテーマで、学内外に対して情報提供、啓蒙活動を行った。
⑦	11月に大分において「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」を実施した。	教員11名・学生12名の参加を得た。症例検討等を通して多職種での情報共有・交流を図った。
⑧	韓国慶尚大学校病院への訪問研修を実施した。また韓国のアサン医療センターへの訪問研修も実施予定である。	韓国のがん医療を見学し、日本との差異および臨床研究のための体制について議論した。
⑨	各大学において小児・AYA世代がんの緩和医療に関する講習会等を実施した。	各大学病院との連携により教育を継続。拠点内（大学間）での共有・波及を次年度具体的に検討する。
⑩	大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会において、がんプロ卒業生による先輩医療人による講演を行った。	がんプロコース卒業後のキャリアパス形成について、学ぶことができた。
⑪	2月に外部評価委員を招いて「3年目中間評価会」を行った。	外部評価委員からのフィードバックにより、各事業の自己点検・進捗管理を行う。

(2) 各事業の実績・成果（詳細）※各大学の取り組みも踏まえ、特色ある内容等に触れながら記述すること。

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>10大学・計34コース（大学院24コース、インテンシブ10コース）において教育を実施。今年度は合計約360名の学生が在籍し、317名の修了者を輩出した。九州がんプロ全体として当初の受入目標を達成。特に、九州大学「先端医用量子線技術科学コース」、福岡大学「多職種連携がん専門医療人育成コース」（インテンシブ）、大分大学「ライフステージに応じたチーム医療人養成コース」（インテンシブ）では、当初目標を大きく上回る学生受入を達成した。</p> <p>各コース学生のうち19名が、各種専門医に合格。がんプロ卒業生にも継続して指導を実施している。</p> <p>一部、目標に届かなかったコースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として解決策を検討・対応していく。</p>
②シンポジウム、セミナー、講習会等 ※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>今年度は、合計約80回のシンポジウム・セミナー等を開催。約4,300名もの参加が得られ、当初目標を大きく上回ることであった。各大学において他施設との連携・共同によるセミナー等も活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後がんプロの輪を更に各地域の中へ広げるべく、積極的な開催を進める。</p> <p>また、前述のとおり、新たな視点での企画実施により、幅広い層へがん医療・がんプロを周知することができた。次年度も継続して同様の企画を実施し、がん医療の裾野を広げていくとともに、こういった事業にがんプロ学生も巻き込み、教育にも展開・波及させていく。</p>
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述
<p>九州大学に置く「九州がんプロ事務局」が各大学の情報を収集し、積極的にホームページで発信するように努めた。今年度は合計約50回の記事掲載・更新を行った。また、ホームページと連動したSNS（Facebook, Twitter）も活用し、合計約120回の投稿を行い、広く社会へ広報した。</p>
④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）
<p>各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座等を積極的に実施している。これらに、がんプロ教員・学生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。</p>

⑤離島・僻地対策 ※一部地域のみでの取り組みではなく、九州全体での取り組みが分かるように記述すること。

長崎大学において「在宅・地域医療実習」を行い、5名の学生を計11の医療機関等に派遣して、地域医療を理解する専門人材の育成を行った。また、「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」を大分で開催し、「遺伝カウンセリング」に関する講話や、離島僻地対策、先輩医療人の講演等について九州内での情報共有を行った。次年度以降、更に拠点全体に波及できるような事業を計画する。

⑥自己評価体制（拠点間リトリート含む）

他がんプロ拠点との「拠点間リトリート」として、東北大学・九州大学腫瘍内科合同の研究会及び北信がんプロ拠点との交流を昨年度に引き続き実施した。北信がんプロ拠点とは合同でシンポジウムを行い、互いの事業内容・状況を共有した。

3. 拠点（九州がんプロ）内の連携体制

①各エリアでの活動

	活動内容 ※5行程度で記述
北部エリア	○構成：九州大学（エリア拠点）、福岡大学、久留米大学、大分大学 ・大分大学と九州大学では、今年度も合同カンファレンスを実施し互いの最新情報を共有した。今年度中に、エリア合同でのセミナー開催を予定している。
西部エリア	○構成：長崎大学（エリア拠点）、熊本大学、佐賀大学 ・テレビ会議システムを活用して、長崎大学主催の講演会を他大学でも視聴参加した。
南部エリア	○構成：鹿児島大学（エリア拠点）、宮崎大学、琉球大学 ・インテンシブコースを、鹿児島および宮崎大学の合同で今年度も実施した。

②その他：上記エリアに限らず、大学間の連携や役割分担について特記すべき取り組みがあれば記載（5行程度）。

特になし



#### 4. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

##### (1) 推進委員会所見（平成29年5月23日発表）への対応状況

要望事項	所見の内容 ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	本事業は各大学の連携の下で実施するものであることを踏まえ、一部の大学が主体となって実施するのではなく、事業責任者のリーダーシップの下、事業における各大学の役割や責任体制を明確化し、連携大学すべてが一体となって事業を推進すること。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	地域により3つのエリアに分け、それぞれのエリアに拠点校を置いて、各拠点校がそれぞれのエリアのコーディネーターの教員と連携して事業を推進し、主幹校である九州大学が全体を総括して事業を推進する体制を整える。各大学の補助期間終了後は自大学において予算を確保し本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」（仮称）において、事業継続のための具体的な検討を行う。
②	厳格な事業の進捗管理の下、自己点検・評価や患者等を含む外部評価を実施し、事業の不断の見直しを行いつつ、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に資するものとする。また、客観的なアウトプットやアウトカムを年度ごとに明確にすること。	工程表に基づき、毎年、事業の自己点検・進捗管理を行うとともに、3年目に中間外部評価シンポジウムを開催して、中間評価に基づき、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開する。
③	成果や効果は可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。また、他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	九州大学内に本プラン事務局を設置し、本プランに係るHPを公開して情報発信するとともに、本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座などで事業成果を広く共有し社会に発信する。また、シンポジウムを開催して、取組みや成果を情報発信する。

##### 推進委員会所見に対する今年度の対応状況 ※3～5行程度で記述

①	事業責任者である九州大学（九州北部拠点）と、九州西部拠点の長崎大学、南部拠点の鹿児島大学が緊密に連携して本事業全体の推進役となり、これに連携大学全てが一体となって事業を行っている。本事業継続のため、将来的にも各大学内のがんプロ教育コースを維持して履修生の教育を行うとともに、連携大学との共通のセミナーや実習も実施する必要がある。その財源確保のために各大学内で学内共通経費などの可能性について検討を進めている。
②	自己点検・評価のため毎年内部評価を実施し、さらに外部評価委員による事業の評価を継続して行っている。市民公開講座などでは本事業の紹介を行っており、出席者のアンケートによって患者からの評価を確認している。履修生ががん薬物療法専門医などの専門資格を取得した上で、専門家として実臨床の場でも活躍できる様、専門医試験受験の為の相談窓口を開設し、さらに参加大学全体で専門医試験提出用の症例レポートの査読を実施する体制を整えている。
③	プランの公式ホームページおよびSNSを活用して情報発信を継続している。また、各種事業の実績を詳細に記載した「報告書」を作成しホームページに公開することで、社会に対して成果等を可視化して普及・展開することに努めている。また、九州がんプロ参加大学間や拠点間で、先進的な取組やモデル事例の情報を共有して成果の展開に努めている。

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（充実を要する点） ※工程表の内容を転記（編集不可）	本プランの対応方針 ※同左
①	連携大学との教育・研究の情報共有方法を明確にする必要がある。	「事業運営推進協議会（仮称）」を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催して連携大学間で教育・研究の情報共有を図る。また、TVカンファレンスや合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有すると共に、毎年、連携大学共同の研修会を実施する。更に、本プランコース履修生の修了後、所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。
②	拠点間リトリートの開催は有用と思われるが、トピックによっては医療事情や社会事情が異なるので、地域性を考慮し、相互にメリットが得られるよう工夫が必要である。	それぞれの拠点が実施している特色のある活動に関する情報を、相互に提供しあえるように拠点間リトリートの内容を検討する。例えばゲノム医療に関しては、すでに国内最大規模で稼働している東北メガバンクの情報を東北の拠点より提供頂き、がん教育に関する国際連携拠点については韓国ソウルのアサン医療センターにて継続的に実習を行っている九州の拠点が情報提供することを計画している。
③	事業の実施体制において、実施に関わる教員数が著しく少ない。	連携大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院長がこれを統括する。各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学の幹事コーディネーター教員がこれを統括する。事業の実施にあたっては、各大学において、実務担当のコーディネーターに協力して、がん関連の他の教員等もコース運営、事業実施に参画する体制をとる。
④	ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーストップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。	ライフステージ毎に異なる、多様な患者・家族支援を提供できるよう複数の医療機関、および医療機関以外の他団体の専門職が参加するカンファレンスを開催し、がんプロ学生、教員も含めて先駆的な対応策の実施を検討する。

推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況 ※3~5行程度で記述

①	今年度は「事業運営推進協議会」を4回実施（予定含む）。テレビ会議システム等を利用し、遠隔地間でもコミュニケーションが取り易い体制を整備している。また、11月に拠点全体の「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」を大分で実施。顔の見える形での交流・情報共有も行っている。
②	今年度は、東北がんプロに加えて北信がんプロとの交流も実施。互いの事業内容・状況を共有することで、自拠点のみでは賅えない教育を提供することができている。次年度は事業4年目に当たることから、最終評価に備えて具体的な相互評価を実施することで検討している。
③	各大学コーディネーターの強力なイニシアチブのもと、自大学・他機関の教員を多数教育に参画させ、各種講義等を展開している。今後、九州がんプロ内で各大学の教育に参画している教員の情報を共有し、大学間の教育差を埋めるような取組を検討する。
④	自大学のみでは提供が困難な内容は、eラーニング等も活用しながら積極的に教育を実施した。市民公開講座等では、新規テーマと連動させた企画も実施した。一般社団法人AYAがんの医療と支援のあり方研究会等との共催で開催した「AYA教育セミナー」では、「AYA世代がん患者の『患者中心の意思決定』」をテーマに講演及び経験者と医療者の対談を行った。今後も、焦点化・先駆的取組の実施に努める。

## 5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

### 理由・分析等

- ・九州がんプロ全体として、教育コースの当初受入目標を達成でき、一部のコースでは目標を大きく上回る学生受入を行った。また、修了者・資格合格者も輩出が進んでいる。
- ・各大学、各エリアにおいて当初目標を大きく上回る数の大小様々な規模のシンポジウム・セミナー等を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。各大学においてがん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携・共同も活発化している。また、一般人を対象とした市民公開講座を開催し、啓蒙活動やがんプロ事業の周知を行った。
- ・各大学のがんプロ活動情報を収集し、積極的にホームページ、SNSで発信し、広く社会へ広報できた。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・一部、受入目標に届かなかった教育コースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討し、引き続き積極的な学生受入を行う。
- ・各大学附属病院の機能を活かし、がんプロ教員・履修生が各施設の事業・教育活動に積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高めていく。
- ・来年度から新たにインテンシブコースを開設し、九州内のがん診療に携わる医療従事者に対して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を行う。eラーニングクラウドを利用することで僻地・離島などの地理的な問題で受講できなかった医療従事者にも教育提供することが可能となり、新ニーズに対応できる医療人の裾野が拡がり本事業の成果が増すことが期待できる。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 社会環境医学講座 連携社会医学分野 教授 馬場 英司
事務担当者	医系学部等学務課 課長補佐 田中 紀代美

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本年度は「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」6名、「先端医用量子線技術科学コース」12名、「がん専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん研究薬剤師コース博士課程」2名の**合計22名の新規受入**があった（「希少がん・放射線治療学コース」、「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」の今年度受入はなし）。これにより、現時点での本学における**第3期がんプロコースへの在籍者は合計66名**となった（うち第2期からの移行19名。また、これとは別に、第2期コースの在籍者15名に対しても継続して教育を提供している）。
- ・がんプロ履修生に対して新ニーズ「がんゲノム医療」「小児・AYA・希少がん」「ライフステージに応じたがん医療」を主題とするがん教育カリキュラムを作成、講義を行った。その**大部分となる26回分の講義については、eラーニング用として収録も同時に実施**し、収録した資料を基に、九州がんプロ養成プラン参加大学と協力し、eラーニング教材を作製した。全国eラーニングクラウドへのアップロードも進めており、**現在11回分の講義のアップロードを完了**している。
- ・がんプロ履修生が複数のがん種の臨床研修を臓器横断的に行えるよう診療科間のコーディネートをを行った。本年度は、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の受験対象者はいなかった（これまでにがんプロ卒業生16名が、がん薬物療法専門医を取得済み）。「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」の学生が日本外科学会専門医に合格する等の実績も出始めている。
- ・がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者を加えた「**がんゲノム医療講習会**」を、拠点内他大学との共同開催、また、九州大学病院ARO次世代医療センターとの共催で開催した（**本年度計5回、合計472名参加**）。この講習会は、本学のがんプロを担当する九州連携臨床腫瘍学講座の教員、がんプロ卒業生が主体となって企画・準備、そして講演を行った。
- ・九州大学病院がんセンターとの共催にて、がんセミナーを開催した（**本年度計3回、合計約160名参加**）。九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種の出席者に対し、様々ながん種の基本、問題点に関する講演と質疑応答を行った。
- ・例年大分大学腫瘍内科と九州大学腫瘍内科で開催されているカンファレンスと九州がんプロ全体研修会を「**大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会**」として合同で行い、九州大学から学生6名、教員4名が参加（大分開催、九州がんプロからは4大学が参加。合計34名）し、職種・学生・教員の枠を超えて交流、講演、ディスカッションを行った。
- ・**他のがんプロ拠点との「拠点間リトリート**」として、2020年3月13日東北大学・九州大学腫瘍内科合同研究会を行う予定である。
- ・小児緩和ケアチームの定期的な活動（ラウンド週1回、勉強会2ヶ月に1回、カンファレンス2ヶ月に1回）へ、がんプロ教員・履修生が毎回4名程度積極的に参加している。
- ・2019年6月29-30日、「**九州放射線治療セミナー**」を共同開催し、九州のがん診療連携拠点病院を含む様々な施設の放射線治療医、レジデント、研修医、医学生、放射線治療に携わる看護師ら91名が参加（九州がんプロからは2大学、教員1名、がんプロ学生1名が参加）。症例報告や研究発表などを行い、情報交換、ディスカッションを行った。また、放射線治療に興味のある研修医、医学生への啓蒙活動を行った。
- ・6月に「**韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修**」を実施。がんプロの教員2名・学生2名が渡航し、施設見学や韓国側との意見交換を行った。



がんゲノム医療講習会（第4回）

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・本プラン履修生を対象とし「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」、「がんゲノム講習会」、「海外施設訪問研修」を実施した。また、小児科領域を学ぶ履修生については「小児緩和ケアチームによる定期的な活動」（ラウンド、勉強会、カンファレンス）への参加、レポート提出を求めた。これらにより新ニーズに対応するための知識と、実臨床における理解が深まった。
- ・「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」では本プランが目指す「ゲノム医療に対応するがん専門医療人の養成を行う」ため、多職種の履修生・教員が集い、研究発表や講演を通じてゲノム医療への理解を深めた。
- ・「がんゲノム講習会」を本年度4回開催した。うち1回はテレビ会議システムを活用し、5大学（九州、福岡、長崎、宮崎、鹿児島大学）において同時開催。九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野の丸岡保博助教を講師として、「がん腫瘍内の腫瘍幹細胞および制御性T細胞を標的とした近赤外光線免疫療法について」について学習した。
- ・今年度はアルゼンチンから医師の研修者を1名受け入れた。共同の臨床実習を通じて、各国における腫瘍学分野についての情報や意見の交換を通して、知識の更なる習得・定着向上に活かすことができた。
- ・「小児緩和ケア勉強会・講演会」は5回開催し、履修生・教員は「小児緩和ケアにおける看護の役割」や「小児緩和ケアのこれから」についての講演を聴講し、小児緩和ケアについての理解を深めた。
- ・6月に「韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修」を実施。がんプロの教員2名・学生2名が渡航し、施設見学や韓国側との意見交換を行った。



韓国昌原慶尚大学校病院・普州慶尚大学校病院訪問研修

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・前述のとおり、本年度は「ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース」6名、「先端医用量子線技術科学コース」12名、「がん専門細胞検査士コース修士課程」2名、「がん研究薬剤師コース博士課程」2名の合計22名の新規受入を行った。
- ・2020年4月から、全国eラーニングクラウドを利用し多職種のがん専門医療人を対象としたインテンシブコース開設のための準備を行った。

#### 1. ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース

##### <概要>

がんゲノムについての基礎医学的、臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会やTV講演会を行うとともに、米国や韓国の先進的な施設・大規模施設への訪問研修、拠点間リトリートなどの機会を通じて、参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。

がんゲノムに関する基礎医学的な知識、実臨床におけるがん遺伝子パネル検査の適応判断と検査の実施、病理検体の評価、パネル検査結果に関するデータベースを用いた検索と解釈（キュレーション・アノテーション）、エキスパートパネルの運営、患者・家族への説明、二次的所見の解釈と遺伝カウンセリングの適応判断、などを身につけている。

大学院生の入学数の増加が必要であるため、がんプロ教員が積極的に学部生に対してがんゲノムに関する講義、実習を行う機会を増す。その一環として、本年度より学部生を対象とした「基盤がん医療」科目を新たに開講し、がんプロ教員が講義を行った。

##### <研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

「がんゲノム医療講習会」として1年間に5-6回に分けて、多職種を対象に院内講習会を実施している。テーマは（1）がんゲノムの基礎医学、（2）がんゲノムパネル検査の実際、（3）病理学的検査方法、（4）二次的所見と遺伝カウンセリング、（5）バイオインフォマティクスによる検査結果の解釈、（6）個人情報保護、などについて60-90分の講義を実施した。

##### <今後の予定>

今後、特に履修生が課程修了後に、各地域の医療機関でリーダーとしてがんゲノム医療を牽引できるよう、さらに大学間連携に基づく教育を深めていく。

## 2. 希少がん・放射線治療学コース

### <概要>

放射線治療に関する基礎知識、臨床知識、最新の知見だけでなく、化学療法や外科治療、ゲノム治療などの総合的ながん治療に関する知識を習得している。加えて、放射線治療とゲノム医療との関連についての知識も身に着けつつある。

### <研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

九州内の放射線治療に携わる医師、技師、物理士、看護師などの多職種の医療従事者が参加する放射線治療セミナーを開催し、症例検討や研究発表を行い、意見交換を行った。九州放射線治療セミナーには医学生・研修医・レジデントにも積極的な参加を促し、がんプロについて周知を行っている。

毎週開催されるキャンサーボードや放射線治療カンファレンスにおいて、質疑応答や意見交換を行っている。また定期的な研究ミーティングで研究成果について把握・評価している。

### <今後の予定>

若手放射線治療医に対して本コースの教育効果を積極的にアピールする。また放射線治療医を志望する医師の総数を増やすため、医学生・研修医・レジデントに年に1回開催している九州放射線治療セミナーに参加してもらい、放射線治療の魅力について啓蒙する。

## 3. 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース

### <概要>

小児がんについての基礎知識、臨床スキル、最先端の研究について、当院小児科医医師の講義を通して見識を深め、小児がん拠点病院としての役割を果たす当院の立ち位置を、履修者が理解できるよう努めた。また、小児がんの中でも稀な希少がんについても、症例が集まる当院の経験を基に、希少がん診療の必要性や問題点について共有した。小児、思春期から青年期を経て成人するまでの過渡期であるAYA (adolescent and young adult) 世代がんの特有の問題を知り、実臨床への応用ができるようになることを目指した。

### <研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

2019年12月21日に、一般社団法人 AYAがんの医療と支援の在り方研究会 (AYA研) との共催で教育研修セミナーを九州大学馬出キャンパス内にて開催した。がん専門看護師、臨床心理士の講演に続き、がんサバイバー3名との対談が企画され、約60名が参加し白熱した討論が行われた。

九州山口小児がん研究グループ (KYCCSG) では、小児がん診療に携わる病院同士で情報共有やミーティング、セミナー開催などを行っており、緊密な連携を維持している。

### <今後の予定>

小児緩和ケアチーム勉強会 (2か月に1回)、小児がん相談支援部会 (年に1回)、小児がんのこどもの教育を考える講演会を実施していく予定である。

小児がん診療は今後さらに集約化され、小児がん拠点病院としての当院の役割はますます重要になってくることが予想される。全国有数の症例数を誇る当院の臨床経験を本コース履修によって共有し、将来の小児がん医療を牽引する医師を養成すべく、研修会の企画や大学間連携の強化を図る。

## 4. がん専門細胞検査士コース修士課程

### <概要>

臨床現場の病理学分野において、希少がん及び小児がんの的確なる細胞診断能力を身につけ、細胞検査士としての的確な細胞診断業務を行える人材の養成を目指す。細胞検査士とは、患者から採取された検体を染色し顕微鏡において“がん”の有無を正確に判定する“がん”のスクリーニングにおいて、なくてはならない人材とされている。検査材料は婦人科・泌尿器をはじめ身体全体から採取されるものを対象とする。また、従来の形態学的検査技術に加えて、遺伝子解析をはじめとした分子生物学的検査技術も求められるようになってきており、臨床現場における役割の重要性は高まっている。本プロジェクトでは、付属病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修を行い細胞診断能力の獲得を目指すとともに、形態学・分子生物学に関する研究を行い、臨床現場におけるニーズに対応できる人材育成を目指す。

H29受入4名、H30受入1名、R1受入2名の計7名が本コースで学び、2名が細胞検査士認定試験 (修士2年の10月：一次試験、12月：二次試験) を受験したが、今期合格者は出ていない。

### <研究成果、講演会の実施、大学間交流、研修等>

大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会に教員1名、コース学生2名が参加した。

### <今後の予定>

現在受入目標人数を達成しているが、今後も継続できるようプログラム・コースの充実を図り、目標達成を維持できるよう努力を続ける。この2年間の細胞検査士の合格が達成できていないため、次年度はセミナーの回数を増やし、より合格へ導ける内容に改善していく。

今後は、従来の付属病院 病理診断科・病理部での2年間の臨床研修および形態学・分子生物学に関する研究に加え、以下の2つを柱に卒業後も視野に、本コースの充実を図る。

- 1) 英文和文併用ホームページの開設：国内外への情報発信 (教員紹介、カリキュラム、活動実績、講演会の案内など)
- 2) 講習会の企画：病理形態学的研究のみならず、ゲノム医療にも対応する最新研究の講習会を企画し、在籍生だけでなく既卒者の卒業後も支援する。

## 5. 先端医用量子線技術科学コース

### <概要>

本コースでは、臨床現場で物理的かつ技術的な面で指導的役割を果たし、小児からAYA世代さらに高齢者及び緩和治療までを対象とした臨床研究を推進する先端医用量子線技術科学の医療人（例：高度な診療放射線技師、医学物理士）の養成を目指す。

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の専門家としての観点から貢献する。世界的には、医学物理士は、がんの放射線治療のためにはなくてはならない人材とされている。診断分野では、CT、MRI、PET、超音波、マンモグラフィなどの診断装置および診断画像の品質管理・保証を実施する。治療分野においては、医師と連携を取り、治療計画の最適化を行い、診療放射線技師および放射線治療品質管理士と協力し、治療装置の品質管理・保証を行う。

本プロジェクトでは、医用画像、ゲノム情報などを含む臨床ビッグデータを適切に管理、解析でき、ゲノム医療にも対応できる医療データサイエンティストとしての役割を果たす人材を目指す。さらに、臨床の現場で必要とされるニーズと基礎理工学を繋ぐ先端医用量子線技術科学を教育し、関連する研究を指導する。

H29受入12名、H30受入13名、R1受入12名の37名が本コースで学び、そのうち11名が医学物理士認定試験を受験し、6名が合格した。

### <情報発信>

「先端医用量子線技術科学コース 医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」について国内外へ広く情報を発信するため、2018年3月に開設した英文和文併用ホームページ (<http://web.shs.kyushu-u.ac.jp/~mp/>) で、教員紹介、カリキュラム、活動実績、講演会の案内を発信し、さらに海外からの留学生リクルートにも活用している。

### <講演会の実施>

2019年度第1回新九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2020年1月11日予定）

2019年度第2回新九州がんプロ・先端医用量子線技術科学コース講演会（2020年2月8日予定）

### <大学間交流・国際合同シンポジウム>

・2019年度：マレーシア・マラヤ大学

JOINT SYMPOSIUM BETWEEN UNIVERSITY OF MALAYA AND KYUSHU UNIVERSITY

2020年3月6日予定

### <海外研修等・訪問>

・2019年度：タイ・Chulalongkorn University病院研修（2名の修士学生を派遣）

2020年3月2日ー6日予定

・2019年度：マレーシア・マラヤ大学病院研修（2名の修士学生を派遣）

2020年3月6日ー7日予定

### <今後の予定>

本学の保健学専攻修士課程医用量子線科学分野は、医学物理士認定機構により「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」（すべての領域）として平成25年度（2013年）に認定され、医学物理教育コースの認定を毎年更新し、今後も維持できるようにコースの充実を図る。

アジアだけでなく世界を視野に入れ留学生を受け入れ、留学生の出身大学との国際共同研究を推進する教育研究プログラムを開発し、国際的な先端医用量子線技術科学を教育する。したがって、アジア諸国で活躍できる医学物理人材育成のために、保健学専攻修士課程アジア保健学コース（国際コース）にがんプロの育成を拡充する。アジア諸国の医学物理教育と研究の向上に貢献することで、がんプロの国際化を目指す。本専攻ではこれまで5名の留学生が卒業し、国内外で活躍している。本専攻で学んだ高度な医学物理教育を身につけた留学生が自国へ戻っている。そのために留学生獲得をすすめるべくリクルート活動や協定締結を推進していく。さらにアジア諸国の医学物理研究者と国際共同研究を推し進め、国際ジョイントシンポジウムや海外研修を行うことで、国際的に活躍できる研究者を育成指導する指導者の能力向上にも取り組み、本コースの一層の充実を目指す。

今後は、博士後期課程における診断、核医学、放射線治療の医学物理士養成のための大学院教育の向上に取り組む。毎年のがんプロ講演会も土曜日に開催することで、在籍生だけでなく既卒者の卒後教育をも支援する。

## 6. がん研究薬剤師コース博士課程

### <概要>

本コースは、九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程に設置し、履修対象者を薬学府臨床薬学専攻博士課程大学院生とし、大学院博士課程において、ゲノム医療従事者の養成、希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成、ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成について、新たな教育プログラム・コースを構築する。本プログラムでは、薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献する。

### <今後の予定>

現状の課題としては、がん領域における創薬科学と臨床薬学の研究指向が分離（基礎・応用）していることが挙げられる。今後、がん領域における創薬から育薬までを見渡せる教育・研究環境を一層強化していくことが重要と考えられる。その対応策の一つとして、新研究棟「グリーンファルマ研究所」を平成27年に竣工し、これを基盤に、がん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成する。本研究所では、長年薬学を牽引してきた「システム創薬リサーチ構想」（独自に進められてきた創薬・育薬に関する研究単位を束ね、基礎から臨床まで見渡せる研究環境の構築）の実現を目指す。もう一つの対応策として、創薬育薬を加速化するための即戦力となる企業人材や知財強化のための弁理士を配置し、組織体制を整備する。これにより九大独自のグリーンファルマの中核をなすエコファーマの視点から、既存薬の新たな作用点を発掘し、その誘導体を合成して特許化を加速化する。また薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。さらに九大病院キャンパスの地の利を生かした橋渡し研究を実践し、九州全域のみならず、全国へと連携を広げる予定である。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・「がんゲノム医療講習会」を本年度5回開催。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて合計約470名が出席した。がんゲノム医療の基本、次世代シーケンサーの仕組みや結果の解釈、本学で用いられる各種のパネル検査の特徴、二次的所見への対応（遺伝カウンセリング体制）などに関する講義を行い、出席者と活発な質疑応答が行われた。
- ・11月16日、福岡県と共催し市民公開講座を開催、また12月14日、九州大学AROと市民公開講座を共催し、いずれも「がんゲノム医療」についての講演を行い、ゲノム医療に関する情報を分かりやすく提供するとともに、九州がんプロの取り組みについても情報発信することができた。
- ・「先端医用量子線技術科学コース」では本年度中に4回の講演会を予定している。うち2回は海外の大学との国際合同シンポジウムの開催を予定し、最新の研究等について海外の研究者とディスカッションを行い、国内・海外の最新の知見について理解を深める予定である。

## ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・本学に置く「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページにより発信した（合計約50回の更新）。また、ホームページと連携したSNS（Facebook, Twitter）も併せて活用し合計約120回の投稿発信を行った。

## ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」をはじめとした対面交流に加え、eラーニング支援・テレビ会議システム等のツールも効果的に利用することで、九州全域における教員・学生のネットワークの拡大・深化を進めるとともに、九州全域一律の教育の提供を実施している。
- ・「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療連携拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にごん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について活発な議論を行った（計34名参加）。
- ・当院がんセンターと共催して定期的に開催している「九大病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなくがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加して、積極的な情報、意見の交換を行った（本年度計3回、合計約160名参加）。
- ・小児がん拠点病院である九州大学病院において「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む病院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上を図るとともに、施設毎に異なる状況等を踏まえた意見交換を行った。本年度は小児の在宅ターミナルケアや医療施設での緩和ケアを中心としたテーマを取り扱った（本年度計4回、合計約150名参加）。
- ・当院のがんセンターと小児がん拠点病院事務局と共催で「AYA教育セミナー」を開催した。（約60名参加）
- ・また、積極的に他がんプロ拠点との拠点間リトリートによる相互交流を継続して行っている。東北次世代がんプロ養成プランとは双方の事業に関する情報の共有、がんプロ履修生の研究成果発表などのため、令和2年3月13日に合同講演会を予定している。また北信がんプロとの拠点間リトリートもテレビ会議形式での拠点間リトリートを予定している。



AYA教育セミナー



<p>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会」では教員・本プラン大学院生が高齢者とAYA世代のがん症例について活発な意見交換を行った。</li> <li>・「九州放射線治療セミナー」では教員・本プラン大学院生や放射線治療に携わる多職種医療人にて小児の脳腫瘍やAYA世代の髄膜播種の症例について活発な意見交換を行った。</li> </ul>

### 3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>b: 目標を達成できている</p>
<p>理由・分析等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、当初の計画通り新しい教育コースを開講した。6つの教育コースにおいて、<b>履修者の受入目標22名に対し受入実績22名と、全体の目標をほぼ達成</b>した。</li> <li>・がんゲノム講習会、東北大学拠点との「拠点間リトリート」、市民公開講座など本学にて計画された教育プログラムを実施。九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成に大きく寄与した。</li> <li>・本プログラム履修生や医療従事者を対象として、平成31年度は、大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会 1回、がんゲノム講習会 5回、海外機関への訪問研修 2回（1回は今後実施予定）を施行し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。</li> <li>・また、地域や社会に対してより分かりやすい情報発信をするために、大小様々な規模での市民公開講座を積極的に開催した。</li> </ul>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修生数は当初の目標に概ね達しているが、6つの教育コースにおいて受入目標の人数を今後も達成できるよう、学内・大学病院内の各部局に働きかけて履修者数の増加を図る。本がんプロ教育コース以外の大学院コース（臨床医学研究コース）の臨床研究専門教育科目において、がんプロ履修生対象の「<b>がんゲノム治療</b>」科目を選択可能とすることで、特にがんゲノム医療の情報を幅広く発信し、がん医療への注目を高める。</li> <li>・都道府県がん拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院としての大学病院の活動を利用し、がんプロ教員・履修生が積極的に関与することで、<b>大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高める</b>。</li> <li>・がんプロ事業の開催情報や成果をホームページやSNSを用いて更に積極的に発信し、履修者の増員に努めるとともに、広く市民の理解を求めていく。</li> <li>・事業運営推進委員会やテレビ会議を通じた大学間の定期的な情報交換、がんプロ全体研修会や大学合同カンファレンス・訪問研修を通じた履修生・教員の直接交流をより積極的に実施し、本プランの円滑な推進に努める。</li> <li>・セミナーやシンポジウムも積極的に開催し他大学との連携も深めており、大分大学との原発不明癌に関する共同研究は論文化を予定している。東北次世代がんプロ養成プランとは継続的な拠点間リトリートによる相互交流を行う予定である。</li> </ul>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	九州大学
-----	------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Izumi T, Sakata K, Okuzaki D, Characterization of human pegivirus infection in liver transplantation recipients, J Med Virol, 91, 2093-2100, 2019
2 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Kawazoe I</u> , Taniguchi K The Sprouty/Spred family as tumor suppressors: Coming of age., Cancer Sci, 110, 1525-1535, 2019
3 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	<u>Hirono Tsutsumi</u> , Multiclonality and Radiosensitivity of Granulocyte Colony-Stimulating Factor-Producing Lung Adenocarcinoma Positive for an Activating EGFR Mutation, Clin Lung Cancer. 2019 Sep 26. pii: S1525-7304(19)30259-1.
4 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	<u>Nakashima K</u> , Hasegawa D, Tomizawa D, Miyamura T, Hama A, Iwamoto S, Terui K, Adachi S, Taga T: Characteristics and outcomes of children with acute myeloid leukemia and Down syndrome who are ineligible for clinical trials due to severe comorbidities. <u>Pediatr Blood Cancer</u> 66(11):e27942, 2019
5 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Terui K, Toki T, Taga T, Iwamoto S, Miyamura T, Hasegawa D, Moritake H, Hama A, <u>Nakashima K</u> , Kanezaki R, Kudo K, Saito AM, Horibe K, Adachi S, Tomizawa D, Ito E: Highly sensitive detection of GATA1 mutations in patients with myeloid leukemia associated with Down syndrome by combining Sanger and targeted next generation sequencing. <u>Genes Chromosomes Cancer</u> [Epub ahead of print], 2019
6 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	<u>Shibui Y</u> , et al. Intrahepatic cholangiocarcinoma after the Fontan procedure. Human pathology case reports 2019;15:15-19
7 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	<u>Shibui Y</u> , et al. Glypican-3 expression in malignant small round cell tumors. Oncology letters 2019;17:3523-28
8 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Yanagi Y, Yoshimaru K, Matsuura T, <u>Shibui Y</u> , et al. The outcome of real-time evaluation of biliary flow using near-infrared fluorescence cholangiography with indocyanine green in biliary atresia surgery. Journal of Pediatric Surgery In press
9 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	Souzaki R, Kawakubo N, Matsuura T, Yoshiharu K, Koga Y, Takemoto J, <u>Shibui Y</u> et al. Navigation surgery using indocyanine green fluorescent imaging for hepatoblastoma patients. 2019; 35:551-557
10 先端医用量子線技術科学コース	<u>Motoki SASAHARA</u> , Hidetaka ARIMURA, Kenta NINOMIYA, Takaaki HIROSE, <u>Noriyuki NAGAMI</u> , Yudai KAI, Yusuke SHIBAYAMA, Saiji OHGA, Junnichi FUKUNAGA, Machine-Learning-Based Framework for Estimation of Prostate Locations with Anatomical Feature Points on CBCT Images for Image-Guided Target-Based Patient Positioning in Prostate Cancer Radiotherapy, <u>Medical Imaging and Information Sciences</u> 2019 Volume 36 Issue 3 Pages 122-127, <a href="https://doi.org/10.11318/mii.36.122">https://doi.org/10.11318/mii.36.122</a> , 2019.10.
11 先端医用量子線技術科学コース	<u>Noriyuki Nagami</u> , Hidetaka Arimura, Mazen Soufi, Mitsutoshi Ohishi, Takeshi Imaizumi, Yoshimasa Yamaguchi, Kenta Ninomiya, Sunao Tokumaru, Shingo Toyama, Kanako Kawasaki, Aiko Kitazato, Satoshi Takita, Kouji Uba, Hiroyuki Irie, An approach for evaluation of delineation accuracy of GTV contours with considering interobserver variability in reference contours: Impact of MAR on radiation treatment planning, <u>Medical Imaging and Information Sciences</u> 2019 Volume 36 Issue 1 Pages 4-9.
12 先端医用量子線技術科学コース	<u>Hirata Y</u> , Fujibuchi T, Fujita K, Igarashi T, Nishimaru E, Horita S, Sakurai R, Ono K, Angular dependence of shielding effect of radiation protective eyewear for radiation protection of crystalline lens, <u>Radiological Physics and Technology</u> , 10.1007/Fs12194-019-00538-2, 2019.
13 がん研究薬剤師コース	Kanado Y, Tsurudome Y, Omata Y, <u>Yasukochi S</u> , Kusunose M, Akamine T, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S: Estradiol regulation of P-glycoprotein expression in mouse kidney and human tubular epithelial cells, implication for renal clearance of drugs. <u>Biochem Biophys Res Commun</u> , (2019)

○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 先端医用量子線技術科学コース	峰松優、藤淵俊王、有村秀孝、ソーシャルビッグデータを活用した放射線被ばくに対する不安意見の解析システムの開発、保健物理、55、1、2020年

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	Keiichi Ota, Tsuyoshi Ueno, <u>Takayuki Nakanishi</u> , Takako Nakano, Takafumi Yamashita, Michihiro Yoshimi, Fujita, Hiroshi Okabayashi, Yoshiaki Tao, Shohei Takata Evaluation of PD-L1 expression prevalence using IHC 22C3 pharmDx in NSCLC specimens with short-duration formalin fixation, ESMO 2019 (Barcelona) 2019.9.28
2 希少がん・放射線治療学コース	<u>Yushi M. Takaaki</u> M, Kuniaki S, Atsushi F, Akihiro K, Hiroaki W, Kensuke K, Junichi T, Dai S, Shotaro K, Miwa N, Yusuke T, Hajime O, Yosuke K, Hidetoshi E, Katsumi S, Masakazu H, Hiroshi H, Koshi M, Clinical Significance of eIF5-mimic protein 1 expression in pancreatic cancer, AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019.3.29-4.3
3 先端医用量子線技術科学コース	<u>Katsube S.</u> , <u>Tsubaki Y.</u> , Tsutsui Y, Baba S, Nohtomi A, Fujibuchi T, Sasaki M. Performance of 18F Cerenkov Luminescence Detection on General Optical Imaging Devices. 105th Scientific Assembly and Annual Meeting, Radiological Society of North America (RSNA) 2019. Chicago, USA. December 1-6, 2019.
4 先端医用量子線技術科学コース	<u>Makoto Ozaki</u> , Junji Morishita, Yoichiro Shimizu, Yusuke Kawazoe, Yayoi Sakata. Feasibility study of similar subtraction images using similar chest radiographs of different patients. 2019 Korean Society of Radiological Science Conference (KSRS) 2019年6月1日
5 先端医用量子線技術科学コース	<u>Yuva Yamashita</u> , Nobukazu Tanaka, Junji Morishita. Potential Usefulness of Scattered Radiation Removal Processing for Chest Radiography. 2019 Korean Society of Radiological Science Conference (KSRS) 2019年6月1日
6 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawachino I.</u> , Fujibuchi T, Kaneko T, Okada Y, Fukunaga J, Komiya I. Examination of Setup Training Method of Radiotherapy using Virtual Reality and Mixed Reality, AAPM 2019 (San Antonio, USA) 2019.07.14-18
7 先端医用量子線技術科学コース	<u>Yamamoto I.</u> , Fujibuchi T, Evaluation of Basic Performance of Real-Time Wireless Dosimetry System for Interventional Radiology, 5th International Symposium on the System of Radiological Protection, (Adelaide, Australia) 2019.11.17-21
8 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kawachino I.</u> , Fujibuchi T, Kaneko T, Okada Y, Fukunaga J, Komiya I. Improvement of Setup Training Method of Radiotherapy using Virtual Reality and Mixed Reality, Korean Society of Radiological Science (Soul, South Korea) 2019.5.20
9 先端医用量子線技術科学コース	<u>Hanada Y.</u> , Nohtomi A, Ueki T, Kurihara R. A fundamental study of a development of neutron dosimeter using double self-activated CsI scintillators for neutron doses around clinical Linacs, IEEE NSS-MIC 2019 (Manchester, UK) 2019.10.26-11.02
10 先端医用量子線技術科学コース	<u>Kana Edamitsu.</u> , Hideaki Matsukawa, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Tomonari Sasaki. Intra-fractional Dose Variation of Organs at Risk in High Dose Rate Image-guided Brachytherapy for Cervical Cancer RSNA 2019 in Chicago 2019.12.1-5
11 先端医用量子線技術科学コース	<u>LE Cuong Quoc.</u> , Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, Prediction of Five-year Survival Probabilities of Head-and-neck Cancer Patients Based on Radiomic Signatures Selected by Coxnet (Oral, Aug. 8), PIT-FMB & SEACOMP 2019 (Bali, 8-10, Aug. 2019), 2019.08
12 がん研究薬剤師コース 博士課程	<u>Yasukochi S.</u> Kusunose N, Itoyama S, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S., Circadian clock-based strategy for exploration of approved drug to alleviate neuropathic pain hypersensitivity., The 48th Naito conference, 2019, Hokkaido
13 がん研究薬剤師コース 博士課程	<u>Matsukane R.</u> Katsube Y, Tajima S, Watanabe H, Egashira N, Masuda S. Role of MATE1 in the platinum-based chemotherapy against endometrial cancer, BioMedical Transporters 2019, Lucerne, Switzerland (Poster and abstract selected oral presentation)

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川副徹郎, 佐伯浩司, 中島雄一郎, 沖英次, 小田義直, 谷口浩二, 食道扁平上皮癌における炎症シグナル伝達経路阻害による治療の基礎的検討, 第119回日本外科学会(大阪)2019年4月20日
2 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	川副徹郎, 中島雄一郎, 安藤幸滋, 木村和恵, 沖英次, 小田義直, 森正樹, 谷口浩二, 炎症関連シグナル伝達経路を標的とした食道扁平上皮癌の新規治療法の開発, 第57回日本癌治療学会学術集会(福岡), 2019年10月26日
3 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也, 大腸癌におけるCTDSP1のイリノテカン耐性メカニズムへの関与, 第119回日本外科学会(大阪), 2019年4月19日
4 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也, CTDSP1 determines irinotecan sensitivity and its inhibitor rabeprazole suppresses irinotecan effect in colorectal cancer, 第74回日本消化器外科学会(東京), 2019年7月18日
5 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	松岡弘也, CTDSP1 determines irinotecan sensitivity and its inhibitor rabeprazole suppresses irinotecan effect in colorectal cancer, 第57回日本癌治療学会(福岡), 2019年10月26日
6 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	中村 聡, 古森 雅志, 中垣 憲明, 高野 智嗣, 衛藤 大祐, 井手 真亜子, 上野 剛史, 金城 満, 下釜 達朗, 柴田 大樹, 急速な経過で死亡に至ったBlastomatoid pulmonary carcinosarcomaの一例, 第83回 日本呼吸器学会・日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 2019年9月6日
7 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	中西喬之, 気管支内視鏡下生検後に肺化膿症を来した一例, 第83回日本呼吸器学会九州地方会(北九州)2019年9月6日
8 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一, 生体肝移植ドナーに対する術前ARFIによるグラフト機能予測に関する検討, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月18日~20日
9 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一, 肝癌増殖におけるオートファジーアダプター蛋白optineurinの意義, 第55回日本肝癌研究会(東京)2019年7月4日-5日
10 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一, DNA repair enzyme OGG1 improves prognosis of pancreatic ductal adenocarcinoma, 第57回癌治療学会学術集会(福岡)2019年10月24日-26日
11 ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	井口詔一, 肝移植レシピエントにおける調節性B細胞発現の検討, 第55回日本移植学会総会(広島)2019年10月10日-12日
12 希少がん・放射線治療学コース	本村有史, 食道扁平上皮癌における、がん幹細胞を標的としたスルファサラジン併用放射線治療の検討, 癌と遺伝子・大分外科フォーラム(大分)2019年7月1日
13 希少がん・放射線治療学コース	本村有史, がん幹細胞を標的とした、食道扁平上皮癌に対するスルファサラジン併用の新規放射線治療法の開発, 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会(大阪)2019年6月12-14日
14 希少がん・放射線治療学コース	Yushi Motomura, Takaaki Masuda, Kuniaki Sato, Atsushi Fujii, Akihiro Kitagawa, Miwa Noda, Seiichiro Takao, Hajime Otsu, Hiroki Uchida, Katsumi Sakamoto, Masakazu Hirakawa, Koshi Mimori, Clinical Significance of eIF5-mimic protein 1 expression in pancreatic cancer, 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月26-28日
15 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	渋井勇一, 治療終了後16年後に再発をきたしたマススクリーニング発見神経芽腫の1例, 第56回日本小児外科学会学術集会(福岡)2019年5月25日
16 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	渋井勇一, Medical support of pediatric cancers in Cambodia, 第61回日本小児血液・がん学会学術集会(広島)2019年11月14-16日
17 がん専門細胞検査士コース	中司成, 渡辺寿美子, 上原俊貴, 加来恒壽, 岩坂剛, BCG曝露T24細胞におけるpRbとp21発現の関連性 II, 第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京)2019年6月8日
18 がん専門細胞検査士コース	上原俊貴, 渡辺寿美子, 前田 裕亮, 加来恒壽, 岩坂剛, 蛍光染色を用いたタンパク質発現判定法の検討 -シングルセル解析-, 第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京)2019年6月8日
19 がん専門細胞検査士コース	渡辺寿美子, 中司成, 上原俊貴, 遠峰由希恵, 加藤聖子, 小田義直, 加来恒壽, 岩坂剛, 腺癌細胞の核内所見と細胞周期の関連性: 培養細胞を使用して ワークショップ10, 第60回日本臨床細胞学会総会 春期大会(東京)2019年6月9日
20 がん専門細胞検査士コース	上原俊貴, 大喜雅文, 渡邊壽美子, 大久保文彦, 山元英崇, 加藤聖子, 小田義直, 加来恒壽, 岩坂剛, 内臓細胞診におけるDeep Learningの有用性の検討, 第35回日本臨床細胞学会九州連合会総会(宮崎)2019年7月20日
21 がん専門細胞検査士コース	細山田理葉, 中司成, 上原俊貴, 加来恒壽, 岩坂剛, 渡邊壽美子, BCG曝露T24細胞におけるpRbとp27の関連性, 第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山)2019年11月17日
22 がん専門細胞検査士コース	岩崎遥菜, 近藤守, 上原俊貴, 加来恒壽, 岩坂剛, 渡邊壽美子, 二核細胞の分裂に関する検討, 第58回日本臨床細胞学会秋期大会(岡山)2019年11月17日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会（つづき）

23	先端医用量子線技術科学コース	Makoto Ozaki, Junji Morishita, Yoichiro Shimizu, Yusuke Kawazoe, Yayo Sakata, Yasuo Sasaki, Hidetaka Yabuuchi. Investigation of similar images for similar subtraction technique to reduce artifacts on subtraction images. The 75th Annal Meeting of the JSRT (横浜) 2019年4月11日
24	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Akamatsu G, Shoji A, Kimoto S, Takashima A, Sasaki M. Quantitative evaluation of serial changes on amyloid PET in research data on dementia observation. 第75回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 平成31年4月11-14日.
25	先端医用量子線技術科学コース	Shimokawa N, Kitamura T, Tsubaki Y, Akamatsu G, Sasaki M. Influence of templates for anatomical standardization on quantitative evaluation of amyloid PET. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 平成31年4月11-14日.
26	先端医用量子線技術科学コース	Tsubaki Y, Akamatsu G, Shimokawa N, Kitamura T, Takashima A, Katsube S, Sasaki M. Development of automatic quantitative evaluation program of amyloid PET by using adaptive template and empirical PiB-prone ROI. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 平成31年4月11-14日.
27	先端医用量子線技術科学コース	Takashima A, Shimokawa N, Tsutsui Y, Baba S, Sasaki M. The usefulness of texture analysis analyzing heterogeneous uptake on DaT SPECT images for the differential diagnosis. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 平成31年4月11-14日.
28	先端医用量子線技術科学コース	Katsube S, Tsubaki Y, Tsutsui Y, Nohtomi A, Fujibuchi T, Sasaki M. Quantitative Evaluation of 18F Cerenkov Luminescence Imaging using Optical Imaging Modalities. 第75回 日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 平成31年4月11-14日.
29	先端医用量子線技術科学コース	藤原 光希, 藪内 英剛, 小島 宰, 山下 泰生, 小林 幸次, 本田 浩. 微細構造の描出における圧縮センシングの有用性の検討 第75回日本放射線技術学会総会学術大会 平成31年4月11-14日 横浜市
30	先端医用量子線技術科学コース	Sachine Nakayama, Hidetaka Arimura, Mohammad Haekal, Masahiro Yamada, Prognostic shape-based features on CT images for non-small-cell lung cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04
31	先端医用量子線技術科学コース	Aki Yoshihisa, Hidetaka Arimura, Hidemi Kamezawa, Soufi Mazen, Masahiro Yamada, Selection of wavelet basis functions in radiomic prediction for prognoses in head and neck cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04.
32	先端医用量子線技術科学コース	Kenta Ninomiya, Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, Exploring potential of radiomic features in identification of EGFR-mutant in lung cancer patients (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04
33	先端医用量子線技術科学コース	Ma Zhuangfei, Arimura Hidetaka, Kakeda Shingo, Korogi Yukunori, Automated approach for estimation of sizes of unruptured intracranial aneurysms in MRA images by using localized sparse non-negative matrix factorization (Oral, 12-April-2019), the 117th Scientific Meeting of the Japan Society of Medical Physics (JSMP) (Yokohama, April, 11-14, 2019), 2019.04.
34	先端医用量子線技術科学コース	Yumika Hanada, Akihiro Nohtomi, Taishi Ueki, Ryouzuke Kurihara, Fundamental study of the neutron ambient dose-equivalent measurement using two CsI self-activation method, 第117回医学物理学学会学術大会(横浜)2019年4月11-14日
35	先端医用量子線技術科学コース	Kazuki Matsumoto, Yuki Kasai, Yukihide Fukuyama, Hiromi Terashima, Tomonari Sasaki Dose Evaluation Indices in Myeloablative Total Body Irradiation Using Static Mode of Helical Rotational Intensity Modulated Radiation Therapy System with Different Numbers of Ports 第76回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜市 2019.4.11-14
36	先端医用量子線技術科学コース	Kana Edamitsu, Hideaki Matsukawa, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Tomonari Sasaki. Intra-fractional Dose Variation of Organs at Risk in High Dose Rate Image-guided Brachytherapy for Cervical Cancer 第76回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜市 2019.4.11-14
37	先端医用量子線技術科学コース	峰松優, 藤淵俊王, ソーシャルビッグデータを活用した放射線被ばくに対する不安意見の解析システムの構築, 第75回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2019年4月11-14日
38	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則, 藤淵俊王, 金子晃介, 岡田義広, 福永淳一, 小宮 勲, 仮想現実および複合現実を用いた実践的な放射線治療セットアップトレーニング方法の構築, 第75回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜)2019年4月11-14日
39	先端医用量子線技術科学コース	上野響生, デジタルファントムを用いたRa-223 SPECT画像のモンテカルロシミュレーション 第75回日本放射線技術学会総会学術大会2019年4月12日
40	先端医用量子線技術科学コース	Ma Zhuangfei, Arimura Hidetaka, Risa Nakano, Tamamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Automated approach for estimation of sizes of lung cancer on planning CT images using dense V-net CNN with non-negative matrix factorization (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会(JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07
41	先端医用量子線技術科学コース	LE Cuong Quoc, Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, Prediction of five-year survival probabilities of head-and-neck cancer patients using support vector machine based on radiomic signatures selected by Coxnet(Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会(JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07
42	先端医用量子線技術科学コース	Risa Nakano, Arimura Hidetaka, Mohammad Haekal, Saiji Ohga, Tamamasa Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Dense V-Net automated segmentation approach for gross tumor volumes on 3D planning CT images for lung cancer (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会(JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07.
43	先端医用量子線技術科学コース	Masahiro Yamada, Arimura Hidetaka, Kenta Ninomiya, Classification of histological subtypes of NSCLC using Coxnet and NMF (Poster+Oral), 第38回日本医用画像工学会大会(JAMIT) (Nara, July24-26, 2019), 2019.07.
44	先端医用量子線技術科学コース	山本昂侑, 藤淵俊王, ワイヤレス式リアルタイム線量測定システムの開発と特性評価, 第56回放射線影響懇話会(熊本)2019年7月27日
45	先端医用量子線技術科学コース	神崎祐依, 納富昭弘, 櫻井良憲, 栗原凌佑, CsI板の自己放射化とCCDを用いた熱中性子ビーム測定と生成放射能の校正, 応用物理学学会・次世代放射線シンポジウム2019(首都大学東京)2019年8月8-9日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会（つづき）

46	先端医用量子線技術科学コース	尾崎 誠, 杜下淳次, 清水陽一郎, 佐々木康夫, 藪内英剛. 確信度の向上を目的とした類似差分画像の有用性の検討. 第9回全国大学夏季交流研修会（長崎）2019年8月27日
47	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也, 杜下淳次, 川添優介, 尾崎 誠, Yoon Yongsu, 奥村美紀, 池田典昭. ドイツ水平面を利用した死後の頭部X線CT画像のポジショニング補正の試み. 第9回全国大学夏季交流研修会（長崎）2019年8月27日
48	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也, 杜下淳次, 川添優介, 尾崎 誠, Yoon Yongsu, 奥村美紀, 池田典昭. 死後の頭部X線CT画像のランドマークを用いたポジショニング補正の再現性の改善. 第185回医用画像情報学会（広島）2019年9月14日
49	先端医用量子線技術科学コース	尾崎 誠, 杜下淳次, 清水陽一郎, 佐々木康夫, 藪内英剛. 経時差分画像と比較した類似差分画像の有用性の検討. 第185回医用画像情報学会（広島）2019年9月14日
50	先端医用量子線技術科学コース	上野響生, Ra-223 SPECT画像化の可能性について：モンテカルロ研究 第39回日本核医学技術学会総会学術大会（松山）2019年11月1日
51	先端医用量子線技術科学コース	下川夏実, 赤松剛, 高島彩, 榎部俊, 勝部俊, 佐々木雅之. PET定量評価を用いた脳領域別のアミロイド蓄積の経時変化. 第39回 日本核医学技術学会総会学術大会, 松山市, 令和元年11月1日～3日.
52	先端医用量子線技術科学コース	榎部俊, 赤松剛, 下川夏実, 高島彩, 勝部俊, 佐々木雅之. 脳PET定量解析を用いたアルツハイマー病のアミロイド集積と糖代謝低下の関連の検討. 第39回 日本核医学技術学会総会学術大会, 松山市, 令和元年11月1日～3日.
53	先端医用量子線技術科学コース	高島彩, 下川夏実, 勝部俊, 榎部俊, 簡井悠治, 馬場真吾, 佐々木雅之. 脳ドパミントランスポーターSPECTによる鑑別診断におけるradiomics解析の有用性の検討. 第39回 日本核医学技術学会総会学術大会, 松山市, 令和元年11月1日～3日.
54	先端医用量子線技術科学コース	勝部俊, 榎部俊, 下川夏実, 高島彩, 簡井悠治, 馬場真吾, 藤淵俊王, 佐々木雅之. 高感度デジタルカメラを用いた18Fチレンコフ光画像化の検討. 第39回 日本核医学技術学会総会学術大会, 松山市, 令和元年11月1日～3日.
55	先端医用量子線技術科学コース	佐藤秀昭, 簡井悠治, 氷室和彦, 下川夏実, 高島彩, 勝部俊, 榎部俊, 熊本航大, 佐々木雅之. T0F時間分解能の違いがPET画像の画質へ及ぼす影響. 第14回九州放射線医療技術学術大会, 熊本市, 2019年11月9日～10日.
56	先端医用量子線技術科学コース	熊本航大, 簡井悠治, 氷室和彦, 下川夏実, 高島彩, 勝部俊, 榎部俊, 佐藤秀昭, 佐々木雅之. PETデータ収集におけるステップアンドシュート法と連続ベッド移動法の比較. 第14回九州放射線医療技術学術大会, 熊本市, 2019年11月9日～10日.
57	先端医用量子線技術科学コース	山下雄也, 杜下淳次, 川添優介, 尾崎 誠, Yoon Yongsu, 奥村美紀, 池田典昭. 死後の頭部X線CT画像のポジショニング補正：再現性の改善. 第14回九州放射線医療技術学術大会（熊本）2019年11月10日
58	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴, 楠瀬直喜, 糸山さやか, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘. 神経障害性疼痛の概日リズム制御因子を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索. 第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 2019, 岐阜
59	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴, 楠瀬直喜, 糸山さやか, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘. 神経障害性疼痛の概日リズム制御因子SGK1を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索. 第19回痛み研究の研究会, 2019, 福岡
60	がん研究薬剤師コース博士課程	安河内冴, 楠瀬直喜, 糸山さやか, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘. 神経障害性疼痛の概日リズム制御因子SGK1を標的とした既存薬ライブラリーからの鎮痛候補薬の探索. 第43回西日本薬理学研究会 2019, 福岡
61	がん研究薬剤師コース博士課程	糸山さやか, 安河内冴, 楠瀬直喜, 松永直哉, 小柳悟, 大戸茂弘. 脊髄内の脂質メディエーターに着目したがん性疼痛の概日リズム制御機構の解析. 第36回日本薬学会九州支部大会, 2019, 長崎
62	がん研究薬剤師コース博士課程	松金 良祐, 南 晴奈, 池田 宗彦, 秦 晃二郎, 渡邊 裕之, 辻 敏和, 江頭 伸昭, 増田 智先. 日常診療情報を用いた免疫関連有害事象(irAE)のリスク因子ならびに早期発見マーカーの探索. 第40回日本臨床薬理学会学術大会, 東京, 2019

## ○ その他（受賞等）

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	先端医用量子線技術科学コース	川内野友則, 藤淵俊王, 金子晃介, 岡田義広, 福永淳一, 小宮 勲. 仮想現実および複合現実を用いた実践的な放射線治療セットアップトレーニング方法の構築. 第75回日本放射線技術学会総会学術大会 Bronze Award 2019年4月14日
2	先端医用量子線技術科学コース	Yumika Hanada, Akihiro Nohtomi, Taishi Ueki, Ryouyuke Kurihara, The 117th Scientific Meeting of JSMP: President's Award Gold, 2019.04.14
3	先端医用量子線技術科学コース	LE Cuong Quoc, LE Cuong Quoc, Hidetaka Arimura, Masahiro Yamada, Hidemi Kamezawa, "Prediction of Five-year Survival Probabilities of Head-and-neck Cancer Patients Based on Radiomic Signatures Selected by Coxnet", Best Oral Presentation Award, 17th SEACOMP & the 3rd PIT-FMB (Bali, Indonesia, 8-10, Aug 2019), 2019.08.

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	高松 泰
事務担当者	近藤孝憲

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

「ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース」では、初年度に入学した2人の大学院生が思春期・成人期に起こる婦人科がんに対して治療計画を立て、患者の身体的・精神的・社会的なサポートをする能力の修得に努めている。新たな入学生はいない。

「多職種連携がん専門医療人育成コース」では、がん薬物療法の有害事象対策、疼痛緩和など支持療法、抗がん薬の職業被爆をテーマに講演会を開催した。がんゲノム医療が始まり、福岡大学病院は連携病院に認定された。院内の体制を整備するとともに、医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員など多職種を対象にゲノム医療の勉強会を開催した。またライフステージに応じたがん対策を推進する目的で、リハビリテーション科の医師、がん治療に携わる医師、理学・作業療法士、看護師、薬剤師が集まってがん患者のリハビリテーションワーキンググループを設立した。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

「ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース」では、大学院の学生は、婦人科がんの細胞生物学的特徴に関する研究に従事しており、学会発表や論文発表など成果を報告した。また病院内のキャンサーボードで婦人科がん患者の治療について多職種と議論を行うことで、臨床能力を向上に努めている。

「多職種連携がん専門医療人育成コース」では、特別講演の前に院内メンバーが自施設の取り組みについて発表している。今年度は福岡大学病院で行った免疫チェックポイント阻害薬治療の有害事象のまとめ、抗がん薬曝露対策の現状、緩和ケアに対する取り組み、がんゲノム診療体制について医師、薬剤師、看護師が発表した。自施設の課題を把握した上で講演を聴くと学修効果が高まるとともに、データをまとめる能力、発表する能力を身に付けることができていると考えられる。

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

大学院コースは2名が継続して研修を続けている。2年目の末にあたり、研究中間発表会を開催予定である(2020/1/30)。インテンシブコースとして別表のセミナー、講演会を開催した。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

## ※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

今年度もがんセミナー(共催)を開催し、多くの医療従事者、地域の方々に参加いただいた。参加者数も毎回安定しており、地域の一事業として定着した感がある。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

ホームページでの情報発信を引き続き行った。  
開業医、勤務医、市民への広報もセミナーや講演会の案内状配布、地下鉄駅へのポスター掲示等行っている。  
福岡市医師会と連携した研究会を継続して行い、今年度は血液疾患病診連携講演会（2019/6/14）を開催した。  
骨髄腫患者の会と協力して一般市民を対象に骨髄腫福岡セミナー（2019/11/2）を開催した。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

九州がんセンターと共同で血液腫瘍セミナー（2019/7/25）、南福岡Hematology seminar（2019/11/15）を開催した。  
九州大学、久留米大学、産業医科大学、九州がんセンターなどがん診療拠点病院と共同で、医師、検査技師が参加して白血球診断研究会（2020/2/22）を実施する予定である。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

リハビリテーション部およびがん治療に携わる診療科の医師、理学・作業療法士、看護師、薬剤師が集まってがん患者のリハビリテーションワーキンググループを立ち上げた。全ての高齢がん患者に対して入院時に機能評価を行い、機能が劣る項目に対して介入する。退院後に機能改善効果の有無、転倒などのインシデントの発生状況、手術や薬物療法などがん治療の実施状況を評価する取り組みを開始した。

### 3. 自己評価

【選択肢】 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

がん治療を専門とする診療科への若手医師の入局が少なく、大学院生の確保が不足している。  
多職種連携がん専門医療人育成コースでは、テーマを決めて講演会を計画・実施した。特別講演を聴講するだけでなく、メンバーが自施設の現状と課題をまとめて発表することで、より有効な学修効果が得られたと考えられる。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

「ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース」では、大学院入学者を増やすために、臨床実習中の学生や臨床研修医に対してインテンシブコースの講演会や、病院内外で行われるその他のがん関連の講演会への参加を促し、がん診療に興味を持たせるよう努めていく。

「多職種連携がん専門医療人育成コース」では、同じテーマを掘り下げ、もしくは新しいテーマを取り上げ、さらに多くの回数の多職種連携がん専門医療人育成コースの講演会を計画・実施する。



「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	福岡大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	Miyahara D, Yotsumoto F, Hirakawa T, Yoshikawa K, Shigekawa K, Miyata K, Ito T, Nam SO, Kurakazu M Kanamori Y, Amada S, Miyamoto S. Clinical Features of Recurrence in Patients Without Residual Tumour in Endometrial Cancer. Anticancer Res 39:4581-4588, 2019

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	宮本新吾、伊東智宏、南 星旭、四元房典、宮原大輔、吉川賢一、平川豊文、重川浩一郎、宮田康平、福田宣義、山本卓明、西村典子、申神正子、高石清美、伊東裕子。子宮筋腫に対して全腹腔鏡下子宮全摘術を実施し、術後に下腿コンパートメント症候群を発症した一例。福岡大学医学紀要46：107-111, 2019.
2	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	伊東裕子、倉員正光、南星旭、勝田隆博、伊東智宏、井植大介、四元房典、宮原大輔、宮本新吾。腹腔鏡下子宮筋腫核出術と開腹子宮筋腫核出術とが及ぼす周産期予後の検討。日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 35:175-179, 2019.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	重川浩一郎、深川怜史、倉員正光、井植大介、漆山大知、宮田康平、荒木陵多、南 星旭、讚井絢子、四元房典、村田将春、宮本新吾。当センターにおける前置血管 12 症例の管理方針の妥当性の検討。第71回日本産科婦人科学会学術講演会(名古屋) 2019/4/11-14
2	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	深川怜史、倉員正光、重川光一郎、井植大介、宮田康平、荒木陵多、讚井絢子、伊東裕子、村田将春、宮本新吾。当センターにおける 17 $\alpha$ -hydroxyprogesterone caproate の有効性と安全性の検証。第71回日本産科婦人科学会学術講演会(名古屋) 2019/4/11-14
3	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	宮田康平、井植大介、深川怜史、荒木陵多、讚井絢子、倉員正光、村田将春、宮本新吾。当院で管理した慢性早剥羊水過少症候群 2 症例一産科の視点から。第55回日本産科・新生児医学会(松本) 2019/7/13-15
4	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	倉員正光、村田将春、井植大介、深川怜史、宮田康平、平川豊文、清島千尋、漆山大知、荒木陵多、讚井絢子、南星旭、四元房典、宮原大輔、宮本新吾。当センターにおける卵子提供妊娠の周産期背景と予後。第55回日本産科・新生児医学会(松本) 2019/7/13-15
5	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	深川怜史、倉員正光、重川浩一郎、井植大介、宮本新吾、讚井絢子、村田将春。当センターにおける17 $\alpha$ -hydroxyprogesterone caprateを用いた流早産予防の取り組み。第55回日本産科・新生児医学会(松本) 2019/7/13-15
6	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	重川浩一郎、深川怜史、井植大介、倉員正光、荒木陵多、讚井絢子、伊東裕子、宮本新吾、村田将春。当センターで経験した分娩・産褥期の大量出血による高度貧血の21例。第55回日本産科・新生児医学会(松本) 2019/7/13-15

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	赤木 由人、原 頼子
事務担当者	鬼塚 卓也

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標 1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1、3に対して

がん専門医は実臨床では様々なことが要求されている。診断、治療、緩和など実際の現場で体験してもらうことが、育成するうえで重要と考え実践している。

小児～高齢者におけるがん種はさまざまで、それぞれの年代において特徴がある。また、治療方針も施設間格差が大きい。最近ではPatient centered medicine という考え方も出てきており、治療する側も柔軟に対応していかなければならない時代であることを認識してもらう。

そのためには、専門の学会（癌学会、癌治療学会、家族性腫瘍学会等）に参加し、また教室のがん治療のデータをまとめさせて発表させた。

達成目標1、2に対して

多様ながん治療の場面で卓越した実践力を持ち、症状マネジメント（身体的ケア）ができるがん看護専門看護師を養成することは、がん患者がつらい治療を乗り越えるために必要なケアである。これは、サバイバーとしてがんと共に生きる患者の支えとなり、生きていくための足掛かりとなる。

在宅で過ごしたいと考えるがん患者の退院支援や、在宅で過ごしながらか化学治療や放射線治療に向き合えるよう外来で支える役割を実践できる専門看護師は、どこの場面でも患者・家族のニーズを素早く予測したり、読み取ることで寄り添った看護が実践できる。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

到達目標で述べたように実践教育を行った。

- ① 診断から治療まで：症状や検診結果などからどのような検査が必要であるか、行った検査所見の説明、それをどのように伝えるか、幅広い知識とコミュニケーション能力が必要である。実際に外来診察室で診察の陪審につかせて実践させている。
- ② 治療からその後のフォロー：治療の説明、その治療のメリット・デメリット、治療成績について自身のみならず日本のデータを示す。また、再発が起こった場合などのバッドニュースの伝え方、その治療法と適応など専門的知識の必要性和データの重要性について指導した。  
これらに関しては、今までのキャリアでも基本的には備わっていることは確認できた。しかし、若さゆえあるいは性格から、指導する側との距離を感じるがあった。
- ③ 学会発表のための資料作成はこれまでの指導で自立しており、統計家に相談するなどおおむね完成されていると思われる。

また、実習前準備教育で、学ぶ必要がある治療・薬剤の知識を学習後に、事例を展開し、必要なスキルの向上のために、よりリアルな終末期患者をイメージし、クリニカルスキルトレーニングセンターでの演習につなげている。

さらに、がんプロのHPから、e-learningによるゲノム医療や、AYA世代の疾患の特徴や治療についての知識を習得し、がん看護学実習の内容を充実させることに活かしている。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

大学院生が少ないので、比較的コンタクトが取れやすく、環境は良好と考えられる。  
資格試験は実績、業績が受験資格に含まれているので、簡単には受験できない。受験までの時間は大学院卒業後になるため、それまでの実績を積めるよう計画している。  
また、がん看護専門看護師教育課程においては、患者に卓越した看護が実践できることを目標としているため、常に患者にとって最適な看護ケアを考えている。それに向けては、現場で起こっている現象をどのようなことが起こっていたのかを緻密に分析し、問題点は何であったのか、解決するためにはどのような看護が必要なのかについて看護理論を用い、事例に落とし込むことから患者に必要である看護を選び出すことができる。そのために修士論文は事例からの学びを基調とし、問題解決に向けて、研究のステップを踏みながら、患者中心の看護につながる内容としている。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

上記の研究として深める視点を育成するための知識として必要な内容をセミナーでは行っている。

- ① 大学病院内“がん教室”：毎月1回、がん患者やその家族、関心のある方の自由参加で行っている。  
実務担当の教員が講演を行い、時間が合うときに出席させるようにしている。  
12月までに9回行っているが、癌にかかわる様々な情報を患者レベルで感じ取ることができるので、外来診療においてもその知識を活用している。  
今後は、院生が講師をすることも検討している。
- ② 市民公開講座：特定のがん種（昨年は大腸癌）についての診断から治療までの講座を実施した。  
その中で、薬物治療に関する講演を行った。2月にもう1件、公開講座を予定している。

### ③ 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

上述のように、院外では市民公開講座を、院内ではがん教室を実施している。  
大学院のホームページには具体的なことをアップしていなかったため、今後検討していきたい。  
また、地域の現場に自大学を修了した専門看護師がいないことから、情報発信手段の工夫や、連携体制の構築が必要である。

### ④ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

大学関連病院との連携は特別に行わなかった。  
久留米大学は地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に指定されており、関連病院との連携も整備していきたい。  
また、修了すると自病院に戻り、そこでの役割開発に数年かかるため、修了した久留米大学のために実践するという時間をとることが困難な現状があり、まずは修了生の所属する地域連携拠点病院での役割開発に協力する体制作りが必要である。次に、専門家を育成している久留米大学の教育課程の存在を認めてもらえるための情報発信も必要であると考えられる。

### ⑤ ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

久留米大学では緩和ケアチームによる院内回診や緩和ケア病棟での終末期医療を行っている。また昨年は、九州で3か所のがんゲノム医療拠点病院の1つに指定されたことから、幅広い癌教育・人材育成のカリキュラムを組み込む。  
また、自大学病院においては、修了生が、がん患者の退院支援、外来でのがん治療に関する緩和ケア、放射線治療中の患者に対する症状マネジメントでは卓越した看護が提供できている。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない
c:あと少しで目標を達成できる
<b>理由・分析等</b>
<p>がんに関する知識は徐々に理解を深めていっていると思われる。しかし、がん専門医としての資格の取得や、研究結果をまとめたの学位取得まではもう少し時間を要する。</p> <p>また、がん看護専門看護師としてより高い実践力を持つために、がん看護学実習において、医師の診断過程についても知識を持ち、患者の生活や家族と共に暮らすことを目標として適切と考える治療ができるように、豊かな体験の機会を増やし、意味づけが行えることを常に狙った実践を大切にしている。</p>
<b>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</b>
当コースのアピール、及び現在実践できていることの継続と、新入生の獲得。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	安藤寿彦
事務担当者	諸隈裕基

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標 1～3 に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標 1, 2：九州内の多様な新ニーズに対するがん専門医療人、およびライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成については、コーディネーター変更に伴い、がんプロ事業の取り組みを病院内の臨床腫瘍班（がん治療に関わる各科医師、看護師、薬剤師、検査技師など多職種の横断的組織）での取り組みに変更したことで、推進委員会から全学的な実施体制で取り組むようにご指摘をいただいていた指摘事項に対する具体的な改善対策とした。臨床腫瘍班で定期的に院内でのがん患者診療対策やがん薬物療法専門医育成などへの対応を含め検討する中で、九州がんプロ養成プランで援助可能事項などに対応している。診療の一環としてキャンサーボード、CPC、デスカンファレンス、看護師・薬剤師・理学療法士などとの診療カンファレンス、セミナーによる教育支援および各職種で今後指導的立場となる方々にがん関連の学会・研修会などへの参加支援を行い、院内での専門医療人・多職種人材養成に活かしていただいた。

ライフステージに応じたがん対策としては、緩和ケア診療班を中心に地域医療機関との連携協力カンファレンス（医師、地域医療機関在宅医療部スタッフ、入所施設スタッフ、薬局薬剤師など参加）を行っており、令和元年度第2回（2020. 2. 12. 開催予定）がんプロ主催講演会では、院外関連施設である高木病院不妊センターの小島加代子先生にご講演をいただくとともに、院内産婦人科との連携でスムーズに若年がん患者が不妊対策へ取り組むことが可能となる体制構築をはかる予定である。また同セミナーでがん患者さんの就労支援についても佐賀産業保健総合支援センターにご相談し、ご講演および院内で行っている対策の履修者・職員への周知をはかる予定である。

達成目標 3：がんゲノム医療については、京都大学、九州大学を中核拠点とするがんゲノム医療連携病院であり、エキスパートパネルに履修中の大学院生を参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。がんゲノム医療のこれまでの診療実績としても、臨床試験（S-PLAT：肺がん Guardant360 74症例、PROFILE-F study FoundationOne CDx 4症例、LC-SCRUM：肺がん Oncomine 5症例）など診療実績をあげており、本年6月から保険収載となったがんゲノム検査に対応した院内体制の構築・人材育成など臨床腫瘍班を中心にすすめている。

令和元年度の第1回がんプロセミナーは、がんゲノム医療関連のご講演をいただいた。

小児・希少がんについては、佐賀大学単独での全般的な診療については、各科努力を行っているものの診療体制として厳しい状況が続いている。（小児領域がん診療の常勤医は2名、腫瘍内科も2名体制。がん薬物療法専門医を唐津日赤、嬉野医療センターなど地域がん拠点病院に1名ずつ派遣中）九州管内の他の専門施設と連携を図りながら（小児科での小児がん拠点病院である九州大学小児科との連携など）診療体制構築および専門医療人育成の対策を今後行っていく必要があると考えている。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんゲノム医療については、京都大学とのエキスパートパネルに履修中の大学院生を参加させ、実地のゲノム医療を学ばせている。実際1名（2017年がん薬物療法専門医取得）はエキスパートパネルで2症例の症例提示を行い、がんゲノム検査の結果解釈、二次的所見に対する対応について自身で情報検索し考察する能力を身につけてきている。また、遺伝専門医の取得も目指しており、人類遺伝学会に入会し、2021年に「臨床遺伝専門医」の受験資格を得る予定で、院内の遺伝カンファレンスや関連学会への参加、また患者さんへの遺伝外来での結果説明にも同席し研修をつんでいる。他の2名についても、現状専門分野の専門医取得（ともに血液内科専門医取得。うち1名は2019年に取得）を優先したが、今後がん薬物療法専門医取得に向け準備予定である。両者ともエピゲノム関連（経口DNA脱メチル化剤）の研究活動・リサーチカンファレンスなどを通じ科学的・論理的思考を身につけてきている。令和元年度のがんプロセミナーは、第1回ががんゲノム医療関連（「遺伝カウンセリングって何？」佐賀大学看護学科 生涯発達看護学 鈴木 智恵子 先生、「がんプレジジョンメディシンの現状と今後の展開」慶應義塾大学医学部 腫瘍センター ゲノム治療ユニット 林 秀幸 先生）のご講演をいただき、第2回目は令和2年2月にAYA世代がん患者さんの卵子・精子保存関連（高木病院 小島先生）およびがん患者さんの就労支援についてセミナーを開催予定である。保険収載となるがんゲノム検査に伴うプレジジョンメディシンの実情や課題について理解を深めるとともに、ライフステージに応じたがん対策については、実際に当院と連携して医療を行う先生方から学び交流を深めることでの実地臨床において今後中心となるべく研鑽を積んでいただく予定である。

また、11月2日、3日に別府市において開催された、大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会にコーディネーターおよび大学院生1名が参加し、九州管内の大学でのがんプロの取り組み状況や工夫について意見交換を行うとともに、連携に向け親睦を図った。参加した大学院生も大いに刺激を受けた様子であった。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- 1、統合的地域がん治療専門医育成コース（2年生 2名、1年生 1名）1名は2017年がん薬物療法専門医取得、2名は血液内科専門医取得）国際学会発表1、国内学会発表5など積極的に対外的に情報発信しており、1名は希少がんである成人T細胞白血病の症例の報告で第6回HTLV1学会において宇都宮賞を受賞した。
- 2、統合的地域がん医療人育成プログラム 入学者実績なし。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・第1回 がんプロセミナー 「遺伝カウンセリングって何？」佐賀大学看護学科 生涯発達看護学 鈴木 智恵子 先生、「がんプレジジョンメディシンの現状と今後の展開」慶應義塾大学医学部 腫瘍センター ゲノム治療ユニット 林 秀幸 先生からお話を聞き、がんゲノム検査の保険収載にともない、生殖細胞系遺伝子異常が確認された場合の遺伝子カウンセリングの実情や、プレジジョンメディシンの実情や課題、患者申出療法制度、薬事承認までのロードマップなど制度についても理解が深まり教育効果があった。
- ・第2回 がんプロセミナー（2020.2.12.開催予定）「がん患者の就労支援（仮題）」両立支援促進員 家永佐智子先生、「若年がん患者の卵子保存・精子保存（仮題）」高木病院不妊センター 小島加代子先生 --- 当院で実際に行われている就労支援の現状・改善点、当院で今後実際に連携していくがん患者の妊孕性対策について具体的に把握し今後の実現臨床に活かせるようにする予定。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

九州がんプロのホームページで、がんプロセミナーなどの情報発信を行うとともに、臨床腫瘍班・緩和ケア診療班のホームページを通じ関連医療施設、地域の医療者、市中薬局など広く広報活動を行った。がんゲノム医療については、地方新聞である佐賀新聞での記事（2019.12.2.）での情報発信も行われている。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・地域がん診療拠点病院（佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、国立病院機構嬉野医療センター）との定期的連携（カンファレンスなど）は行えていないが、個別の患者対応については密な連携を行っている。
- ・12/17佐賀県緩和ケア部会を開催し、緩和ケアチームの質向上のためのピアレビューと佐賀県の緩和ケアの質向上のための緩和ケアパスについて検討を行った。
- ・地域医療機関連携協力カンファレンス第1回（6.26）ひらまつ在宅クリニック、訪問看護ステーションほっこり、院内・院外20名参加。第2回（11.28）矢ヶ部医院、訪問看護ステーションバルーン、院内・院外19名参加し、事例検討会を実施。  
九州沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議を年3回（6/24、11/25、3/23）検討テーマは「家族付き添いについて」、「抗がん剤暴露対策」など情報交換を行っている。
- ・小児がん拠点病院である九州大学小児科との連携：毎月1回のテレビ会議（症例相談や、日常診療における細かな施設間差異の確認などをアンケート調査など）をおこなっており、例えば、①骨髄バンク（臍帯血バンク）移植を九州大学に依頼、生着後の管理を当院で行う ②大きな外科手術を九州大学で行い、術前・術後の化学療法を当科で行うなど連携をおこなっている。県内の連携については、県内の各中核病院では小児がんの診療は行えていない状況である。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取組みを整理して自己評価を実施します。

- ・2019年度緩和ケア講演会（10.16）「在宅医療・在宅緩和ケアの現場から～町全体をホスピスに～」のテーマで山岡在宅クリニック医師山岡憲夫先生 院内・院外76名の参加 大分市で5か所のがん拠点病院と連携をとる在宅クリニックの取組みなどお話を聞きライフステージに応じたがん医療体制づくりについて具体的に考えるよい機会となった。
- ・造血幹細胞移植後の症例に対する予防接種の再接種に対する公費補助（20歳未満佐賀在住）2020年4月から実施確定。
- ・がんサバイバーの経済対策（就労支援）：院内活動中の両立支援促進員から2020年2月にご講演いただき活用拡大予定。
- ・がん患者の妊孕性対策：高木病院（大川市）の不妊センターと連携するため2020年2月にご講演いただき相談。（公的補助についても県と今後相談の予定）
- ・将来を見据えた難治性疼痛の緩和：適応があれば神経ブロックを積極的に施行し、鎮痛薬の投与量を減少、QOLの向上に繋げている。（例えば、すい臓がんに対する腹腔神経叢ブロック、骨盤内臓器由来の痛みに対する上下腹腔神経叢ブロックなど）

3. 自己評価

<p>[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない</p>
<p>c: あと少しで目標を達成できる</p>
<p>理由・分析等</p> <p>第3期についてはまだ卒業者はいないためCとしたが、3名の履修者と少ないながら多様な新ニーズに対応するがん専門医療人となるべく研修はつめていると考える。 履修者を指導する人材についても、診療科によっては診療体制としては厳しい現実があるが、実際の臨床・他職種/他施設との連携、セミナーなどを通じ能力向上が図れている。</p>
<p>自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等</p> <p>・統合的地域がん治療専門医育成コースについては、佐賀大学では大学院進学者の母数が少ないというそもそもの問題がある。これまで實際上、血液・呼吸器・腫瘍内科の大学院生が主に本プログラムに参加している状況であったが、がんプロ事業を病院内の診療科横断的組織である臨床腫瘍班での取組みへ変更したことにともない、がん診療に関わる多くの科からの履修を今後促していきたいと考えている。また、がん薬物療法専門医が新専門医制度を開始する事に伴い、臨床腫瘍班を中心に院内全体でこの専門制度に対する方策を検討する方向で動いており、院内体制を含めがん専門医療人育成体制構築に取り組んでいく予定である。</p> <p>・統合的地域がん医療人育成プログラムについては、医師以外の医療人を対象としたプログラムであるが、医師以上に大学院進学者の確保は現実的には厳しい状況である。有効的と考えられる具体策は残念ながら困難である。</p>

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	佐賀大学
-----	------

○ 英文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>Kamachi K</u> , Kubota Y, Nagaie T et al. Primary Chest Wall MYC/BCL6 Double-hit Lymphoma with t (3;7) (q27;p12) and t (8;14) (q24;q32) Translocations, Intern Med, 58, 2073-2077, 2019
2 総合的地域がん治療専門医育成コース	Ureshino H, <u>Kamachi K</u> , Kimura S Mogamulizumab for the Treatment of Adult T-cell Leukemia/Lymphoma, Clin Lymphoma Myeloma Leuk, 19, 326-331, 2019

○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>Yohei Harada</u> , Tomomi Kashiwada, Akemi Sato, Tomonori Abe, Chiho nakashima, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Sueoka-Aragane Analysis of a novel variant of HER2 detected by clinical sequencing in cancer of unknown primary March 29 - Apr 3, 2019 (Atlanta)

○ 国内学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>Yohei Harada</u> , Tomomi Kashiwada, Akemi Sato, Tomonori Abe, Chiho nakashima, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Sueoka-Aragane Analysis of a novel mutation of ERBB2 in cancer of unknown primary 臨床腫瘍学会 2019年7月18日（木）～20日（京都）
2 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>蒲池和晴</u> , 慢性骨髄性白血病に対する新規経口DNA脱目エチル化剤OR-2100の効果の検討, 第23回分子標的治療学会(大阪)2019年6月13日
3 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>蒲池和晴</u> , Mogamulizumab投与後にもT細胞再構築が得られずEBV関連中枢神経原発B細胞リンパ腫を発症したATL, 第6回日本HTLV1学会(宮崎)2019年8月24日
4 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>蒲池和晴</u> , 佐賀大学におけるdouble-hit lymphoma, double expressor lymphoma症例の診断・治療, 第66回日本臨床検査医学会(岡山)2019年11月23日
5 総合的地域がん治療専門医育成コース	吉田奈央, 当院におけるdouble-hit lymphomaの後方視的解析 第81回 日本血液学会(東京)2019年10月11日-13日

○ その他(受賞等)

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 総合的地域がん治療専門医育成コース	<u>蒲池和晴</u> : 第6回日本HTLV1学会学術集会 宇都宮賞, 2019年8月24日



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	医歯薬総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤和人
事務担当者	医歯薬総合研究科 学務課（大学院） 主査 村上陽介

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## ○達成目標 1

- ・多様な新ニーズに対応する専門医療人を養成するため、e-learningの聴講、化学療法・緩和ケアを必須とした臨床実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、ゲノムに関する講演会を学内で2回開催した（年度内にさらに1回開催予定）。また、がんプロの教員や医療スタッフを中心に、ゲノム医療に関して先進的な取り組みを行っている施設の研修会やがんゲノム医療中核拠点病院のエキスパートパネルに積極的に参加した。また、当院の症例においては、エキスパートパネルの結果を受けて、院内キャンサーボードで治療方針等の決定を行った。

## ○達成目標 2

- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を3回共催し（年度内にさらに放射線治療に関する研修会を1回開催予定）、がんプロの教員や大学院生が参加し、がん対策、がんと血栓症、AYA世代のがん患者の理解と支援に関して学んだ。



## 第2回研修会（テーマ：AYA世代がん患者の理解と支援 ～家族への支援も含めて～）

- ・大学院生は、外来化学療法室および緩和ケア外来での実習、およびカンファレンスに参加し、チーム医療、多職種連携の重要性を学んだ。
- ・ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のために、今年度も在宅医療実習を継続して行った。

## ○達成目標 3

- ・がんプロの教員や医療スタッフを中心に国際学会に積極的に参加し、ゲノム医療に関する先進的な取り組みを学び、学内での研修会や説明会で情報を発信した。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ゲノム医療に関する講演会や大学病院がん診療センター主催の研修会への参加、化学療法および緩和ケアに関する実習を通して、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、在宅医療実習を行うことで、地域医療を理解し、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を継続して行っている。ゲノム医療に関しては、院内に設置された「ゲノム診療センター、がんゲノム医療部門」が運用する遺伝子パネル検査症例の院内がんサージカルボードへ大学院生を参加させることで、学生のキャリア教育を行った。



Genomic cancer board

## 2. 各事業の取り組み状況

### ① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- 今年度、がん看護専門看護師養成コースの1名を含めて、本コースへ6名の学生を受け入れ、がんゲノム医療やライフステージに応じたがん医療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行なった。4名の学生が、各専門領域の専門医等を取得した。

### ② シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- がんゲノム医療やライフステージに応じたがん治療に関する講演会、研修会に大学院生が参加することで、がん診療に関するタイムリーな内容を習得し、がんサージカルボードでの討論に関する理解を深めることができた。
- がんゲノム医療をテーマとした長崎大学がんプロ記念講演会では、テレビ会議システムを用いて、他大学で同時聴講を行う予定である。

### ② 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- 今年は、「がんゲノム医療」をテーマにして、大学病院のがん診療センターが主催する県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、がんプロ担当教員が講演を行い、県民への情報発信を行なった。
- これまでがんプロ大学院生の在宅医療実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域がん診療に貢献する大学院生の活動を情報発信している。

③ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会やがん関連の県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。
- ・大学院生に対して、院内での化学療法および緩和ケアに関する臨床実習を行い、チーム医療、多職種連携の重要性を学んでもらった。
- ・院内で定期開催される在宅医との緩和ケアカンファレンスや、カンサーボードに大学院生が積極的に参加し、さらに在宅医療実習等を含めて、病病連携、病診連携を強化するように努力した。

⑤ ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

- ・ライフステージに応じたがん診療の充実を図るため、第2期がんプロで開始した在宅医療実習を継続して行っている。また、院内で定期開催される在宅医との緩和ケアカンファレンスに大学院生が適宜参加し、疼痛管理やACPに関して学んだ。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

#### 理由・分析等

- ・今年度6名の学生を受け入れ、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人の養成を目的として、種々の研修会、講演会の開催、化学療法および緩和ケアに関する実習、在宅医療実習などを行ってきた。また、がんゲノム医療に関する講演会の開催や、院内に設置された「ゲノム診療センター、がんゲノム医療部門」が運営する、遺伝子パネル検査症例の院内カンサーボードへ大学院生を積極的に参加させることで、がんゲノム医療に関する知識の理解に繋がっていると思われる。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・来年度も積極的な大学院生の受入を行い、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成していきたい。
- ・大学院生に対して遺伝子パネル検査におけるエキスパートパネルの準備および参加を促す。
- ・がんゲノム医療や小児・希少がん、ライフステージに応じたがん診療を推進する多職種人材養成のために、単施設での講演会やセミナーの開催ではなく、テレビ会議システムを有効活用し、他大学開催の会にも積極的に参加するように努める。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	長崎大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	Tetsuro Tominaga, Takashi Nonaka, Makoto Hisanaga, Akiko Fukuda, <u>Yukinori Tanoue</u> , Takafumi Yoshimoto, Shigekazu Hidaka, Terumitsu Sawai, Takeshi Nagayasu Prognostic value of the preoperative prognostic nutritional index in oldest-old patients with colorectal cancer Surgery today 2019 Nov 12. doi: 10.1007/s00595-019-01910-w.
2	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	Takeo S, <u>Tanoue Y</u> , Hamada R, Kawano F, Tashiro K, Wada T, Ikenoue M, Nanashima A, Nakamura K Utility of thoracic cage width in assessing surgical difficulty of minimally invasive esophagectomy in left lateral decubitus position. Surg Endosc. 2019 Oct 1. doi: 10.1007/s00464-019-07125-x.
3	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	Takeo S, <u>Tanoue Y</u> , Hamada R, Kawano F, Tashiro K, Wada T, Nanashima A Drainage Tubeless (DRESS) Bypass Surgery as the Best Palliative Care for Unresectable Thoracic Esophageal Cancer with and without Esophago-Respiratory Fistula. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Apr 20;25(2):82-86. doi: 10.5761/atcs.0a.18-00170.

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療専門医師養成コース	<u>荒木 智徳</u> , 佐々木 由香, 小野寺 貴恵, <u>園田 悠紀</u> , 鳥谷 直紀, 石飛 俊介, 今道 祥二, 高木 正稔, 益谷 美都子 PARPとPARGを標的とする抗がん剤のバイオマーカー, 34, 9, 951-958, BIO Clinica

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>Hironori Sawase</u> , Eisuke Ozawa, Naohiro Komatsu, Takayuki Ohishi, Takuya Honda, Emiko Udo, Bungo Furusato, Satoru Iwasa, Mitsuko Masutani, Kazuto Ashizawa, Kazuhiko Nakao Novel ERCC-1 antibody as a possible marker for predicting the effect of FOLFIRINOX for unresectable pancreatic cancer. APDW2019 (KOLKOTA, India) 2019.12.14
2	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>Tasaki Y</u> , Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Pictorial Review of Cardiac Tamponade: What Radiologists Needs to Know. The Radiological Society of North America

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>田上幸憲</u> 、富永哲郎、野中隆、久永真、福田明子、原亮介、吉元崇文、石丸和英、澤井照光、永安武 超高齢者大腸癌患者における術前Prognostic nutritional indexと長期予後に関する検討 第81回日本臨床外科学会総会 2019.11.14-16
2	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>澤瀬寛典</u> 、小澤栄介、岩津伸一、小松直広、有働恵美子、古里文吾、岩佐悟、益谷美都子、中尾一彦 ERCC1抗体によるFOLFIRINOX療法の治療効果予測 第50回日本臓器学会大会(東京) 2019.7.12
3	包括的がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>澤瀬寛典</u> 、小澤栄介、足立智彦、二口充、中尾一彦 遠位胆管癌の術前ERCP 第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会(宮崎) 2019.11.9
4	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>Tasaki Y</u> , Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Mochiduki Y. The patency after balloon percutaneous transluminal angioplasty of access circuits and venous routes using CO2-DSA versus conventional DSA(C-DSA) in hemodialysis patients. 第78回日本医学放射線学会総会
5	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>田崎 裕太郎</u> , <u>山崎 拓也</u> , 高比良 飛香, 中村 太祐, 江川 亜希子, 上谷 雅孝, 岩永 聰. ベバシマブ投与後に胸椎転移に対する放射線治療にてGrade3の放射線食道炎が出現した1例. 九州放射線治療セミナー
6	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>Tasaki Y</u> , Sueyoshi E, Sakamoto I, Uetani M, Mochiduki Y. The patency after balloon percutaneous transluminal angioplasty of central venous routes in hemodialysis patients. 第60回日本脈管学会総会会期
7	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>田崎 裕太郎</u> . SPAカンファ・九州がんプロ合同研修会
8	がんゲノム医療専門医師養成コース	<u>道津洋介</u> Pembrolizumab の治療効果の乖離により発見し得た PD-L1 高発現肺線癌と PD-L1 陰性小細胞肺癌の2重癌の1例. 第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会(東京)2019年7月4日
9	がんゲノム医療専門医師養成コース	<u>道津洋介</u> 低分子化合物による抗原認識能の向上作用の機構解明と大腸癌マウスモデルにおける腫瘍浸潤T細胞への影響の解析. 第23回日本がん免疫学会総会(高知)2019年8月22日
10	がんゲノム医療専門医師養成コース	<u>道津洋介</u> Low molecular compound promotes tumor antigen recognition and enhances the effector function of tumor infiltrating lymphocytes in cancer-bearing mouse model. 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月28日
11	がん専門医師・歯科医師養成コース	<u>福嶋絢子</u> , 乳癌胸骨単独転移に対する胸骨部分切除の一例, 第55回九州内分泌外科学会(鹿児島)2019年5月17日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	馬場 秀夫
事務担当者	緒方 理乃

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## 【大学院コース】

- ・今年度は新規での受け入れ学生はいなかったが、昨年度からのコース在籍者18名ががん専門医療人養成のための講義、研究及び臨床実習等を行った。
- ・コース生に対して、がんの基礎から最先端治療についての講義（必修2単位、選択科目8単位）を対面及びe-ラーニングで開講し、がん専門医療人養成に努めた。
- ・学会参加旅費を支援することで、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本癌学会、日本消化器関連学会等に多くのコース生が参加し、最先端のがん研究について学ぶ機会を得た。
- ・8月に共催した「熊本外科フォーラム」ではJCHO九州病院 血液・腫瘍内科の牧山 明資先生にご講演いただいた。講演にはコース生以外に県内の医師、看護師等多くの医療関係者が参加し、地域の多様なニーズに対応する多職種の医療人との連携を図ることができた。9月に開催した特別講演ではDuke-NUS Medical SchoolのPatrick Tan教授にご講演いただき、海外の先進事例を収集することができた。10月に共催した「CANCER PAIN FOREFRONT in Kumamoto」では特別講演の講師として東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部部長住谷 昌彦先生に「がん治療のための緩和ケアと支持療法」についてご講演いただいた。また、1月に2回、3月に1回、セミナーの開催を予定している。

## 【インテンシブコース】

先端的な医療を理解した研究者、薬剤師を養成するために、国内外で先駆的に活躍する講師のセミナーを複数回開催する予定である。また、平成30年度よりインテンシブコースを開始しているが、受講生がいない状況である。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## 【大学院コース】

今年度、コース生のうち2名が外科専門医、2名が消化器病専門医、7名ががん治療認定医の専門医資格を取得し、今後、がん専門医療人として九州内における即戦力となることが期待できる。

## 【インテンシブコース】

がん薬物療法の系統講義および実務・チーム医療の実践を行い職種間の相互理解を推進し、様々なライフステージの患者に対応した、より効率的ながん薬物療法の実践を可能とする教育を行うことを目的としている。

また、がん薬物療法の全般的知識の理解を目的としたセミナーを通じ、がん薬物療法の現状およびがん治療における課題を明確にし、これらの課題を克服するために存在する、がん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度などを紹介し、がん治療の最適化・治療効果の最大化にいかにして医師・薬剤師が貢献しているかについての理解が深まった。

## 2. 各事業の取り組み状況

<b>①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>
<p>【大学院コース】 今年度の受入は0名であったが、昨年度からの在籍者18名がコース生として在籍している。 学会参加旅費を援助することでコース生が国内外の学会で研究発表を行った。</p> <p>【インテンシブコース】 「専門医資格」を取得した学生はいない。</p>
<b>②シンポジウム、セミナー、講習会等</b> <b>※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。</b>
<p>【大学院コース】 セミナーを3回開催し、合計で約170人の参加があった。8月に開催した消化器がんに関するセミナーでは約4割が県内の医師、看護師等学外からの参加者で、地域の多様なニーズに対応する多職種の医療人との連携を図るとともに、地域の医長従事者へ最新の研究内容の提供を行うことができた。 9月に開催したセミナーでは、講師にDuke-NUS Medical Schoolの教授をお招きし、海外の最新のがん治療研究についてご講演いただいた。本セミナーには学部生も多く参加し、新規コース生受け入れに向けた情報発信もできた。 今後も1月に2回、3月に1回消化器がんに関するセミナーを予定している。</p> <p>【インテンシブコース】 1月より、国内外で先駆的に活躍されている講師の講演を5回開催予定であり、最新の研究内容を聴講することができる。</p>
<b>③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述</b>
<p>【大学院コース】 セミナー等の開催について、本学独自のがんプロ専用Webサイトを通して広く周知を行った。（合計9回）</p> <p>【インテンシブコース】 セミナー開催について、メール等で周知をおこなう予定である。</p>
<b>④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）</b>
<p>【大学院コース】 3回開催したセミナーには本学病院から多くの医療関係者が参加し、がん治療における情報交換を行うことができた。 コース生のコースワークにおいて、本学病院の各診療科の回診・カンファレンスなどに参加することにより、各診療科による治療の実際・緩和ケアの実際を実習している。</p> <p>【インテンシブコース】 なし</p>
<b>⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。</b>
<p>【大学院コース】 なし</p> <p>【インテンシブコース】 なし</p>

### 3. 自己評価

〔選択肢〕 a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

【大学院コース】

c:あと少しで目標を達成できる

【インテンシブコース】

d:目標を達成できていない

#### 理由・分析等

【大学院コース】

本年度のコース生の受け入れがなく、目標人数を達成できなかったが、学会参加旅費支援により多くのコース生を学会へ参加させることができ、最新のがん研究に対応したがん専門医療人の養成をする取組みができた。また、セミナーを目標回数以上開催し、最先端のがん治療についての情報発信を広く行うことができたことに加え、地域の多様なニーズに対応する多職種の医療人との連携を図ることができた。

【インテンシブコース】

インテンシブコースを開設後、受講生を集めることを課題としているが、受入目標人数を確保できていない状況である。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

【大学院コース】

来年度は2名以上の受け入れを予定しており、コース生の増加を図る。また、セミナーの開催等がプロの取組についてWebサイトでの情報発信に努める。

【インテンシブコース】

受講生がいない状況が続いているため、内容等に関して再検討をおこなう必要がある。



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	熊本大学
-----	------

## ○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Uchihara T.</u> , Yoshida N, Baba Y, Nakashima Y, Kimura Y, Saeki H, Takeno S, Sadanaga N, Ikebe M, Morita M, Toh Y, Nanashima A, Maehara Y, Baba H. Esophageal Position Affects Short-Term Outcomes After Minimally Invasive Esophagectomy: A Retrospective Multicenter Study. World J Surg. 2019 Nov 7. doi: 10.1007/s00268-019-05273-8. [Epub ahead of print]
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Sakamoto Y.</u> , Miyamoto Y, Tokunaga R, Akiyama T, Daikoku N, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis. Surgery Today, Accept.
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Mima K, <u>Sakamoto Y</u> (co-first author), Kosumi K, Ogata Y, Miyake K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Ogino S, Baba H. Mucosal cancer-associated microbes and anastomotic leakage after resection of colorectal carcinoma. Surgical Oncology. 2019;32:63-68.
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> Iwatsuki M, Harada K, Koga Y, Kiyozumi Y, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H. Can PD-L1 expression evaluated by biopsy sample accurately reflect its expression in the whole tumour in gastric cancer? Br J Cancer. 121(3):278-280, 2019
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> Iwatsuki M, Harada K, Eto K, Hiyoshi Y, Ishimoto T, Nagai Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Komohara Y, Ajani JA, Baba H. Prognostic impacts of the combined positive score and the tumor proportion score for programmed death ligand-1 expression by double immunohistochemical staining in patients with advanced gastric cancer. Gastric cancer. Aug 26, 2019
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> Iwatsuki M, Koga Y, Toihata T, Kiyozumi Y, Kuroda D, Eto K, Hiyoshi Y, Iwagami S, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. Preservation of physiological passage through the remnant stomach prevents postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction. Surg Today. Sep;49(9):748-754, 2019
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Daitoku N.</u> Miyamoto Y, Sakamoto Y, Tokunaga R, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwatsuki M, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Prognostic significance of serum p53 antibody according to KRAS status in metastatic colorectal cancer patients. Int J Clin Oncol (in press). accept.
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Sakamoto Y, Miyamoto Y, Tokunaga R, <u>Akiyama T.</u> Daitoku N, Hiyoshi Y, Iwatsuki M, Baba Y, Iwagami S, Yoshida N, Baba H. Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis. Surg Today. 2019 Dec 16. doi: 10.1007/s00595-019-01934-2.
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Morito A, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Yagi T, Nomoto D, <u>Akiyama T.</u> Toihata T, Imamura Y, Watanabe M, Baba H. Clinical Importance of Sputum in the Respiratory Tract as a Predictive Marker of Postoperative Morbidity After Esophagectomy for Esophageal Cancer. Ann Surg Oncol. 2019 Aug;26(8):2580-2586.
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yoshida N, Nagai Y, Baba Y, Miyamoto Y, Iwagami S, Iwatsuki M, Hiyoshi Y, Eto K, Ishimoto T, Kiyozumi Y, Nomoto D, <u>Akiyama T.</u> Imamura Y, Watanabe M, Baba H. Effect of Resection of the Thoracic Duct and Surrounding Lymph Nodes on Short- and Long-Term and Nutritional Outcomes After Esophagectomy for Esophageal Cancer. Ann Surg Oncol. 2019 Jun;26(6):1893-1900.
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Morinaga T.</u> Imai K, Morita K, Yamamoto K, Ikeshima S, Horino K, Shimada S, Baba H A rare anastomosis between the root of common hepatic artery and proper hepatic artery: implications for pancreaticoduodenectomy. Surg Case Rep. 2019 Nov 19;5(1):180. doi: 10.1186/s40792-019-0746-y.

## ○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Uchihara T</u> et al. Annexin A6 in Extracellular Vesicles Derived from Cancer Associated Fibroblasts Induces Drug Resistance of Gastric Cancer Cells. AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019. 4. 2
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> Iwatsuki M, Iwagami S, Eto K, Koga Y, Kiyozumi Y, Baba Y, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. The factors associated with postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction, International gastric cancer congress 2019 (Plague) 2019. 5. 8-11
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yamashita K.</u> Iwatsuki M, Eto K, Hiyoshi Y, Nagai Y, Iwagami S, Miyamoto Y, Yoshida N, Baba H. The factors associated with postoperative malnutrition after proximal gastrectomy with double tract reconstruction, International Association of Surgeons, Gastroenterologists, and Oncologists Continuing Medical Education 2019 (Tokyo) 2019. 7. 10
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Daitoku N.</u> Tumor expression of Activin A is associated with clinical outcomes in patients with colorectal cancer, AACR 2019 Annual Meeting (Atranta) 2019. 4. 2
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Itovama R.</u> Nakagawa S, Yusa T, Nakao Y, Yamao T, Umezaki N, Miyata T, Okabe H, Hayashi H, Imai K, Yamashita Y, Chikamoto A, Baba H Clinical significance of Cofilin-1 expression in pancreatic cancer, AACR Annual Meeting 2019 (Atlanta) 2019. 4. 2

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. 胃癌関連線維芽細胞由来エクソソームを介した薬剤抵抗性メカニズムの解明. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. 胸腔鏡下食道切除術における食道の解剖学的位置と手術難易度の関連における多施設共同研究. 第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019年6月7日
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. ストローマ由来細胞外小胞による胃がん治療抵抗性メカニズムの解明. 第28回癌病態治療研究会（埼玉）2019年6月27日
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸. To identify the molecular mechanisms of drug resistance induced by gastric cancer associated fibroblasts. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月28日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 大腸癌肝転移と細菌Fusobacterium nucleatum の関連. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月18日
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 高齢食道癌患者（75歳以上）に対する食道亜全摘術の意義とその問題点. 第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019年6月7日
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. Risk factors and prognostic significance of lateral pelvic lymph node metastasis in advanced rectal cancer. IASGO-CME 2019（東京）2019年7月10日
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. C-reactive protein to albumin ratio is a prognostic marker in colorectal liver metastasis patients. 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. Fusobacterium nucleatum in colorectal cancer liver metastasis and patients' prognosis. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	坂本悠樹. 大腸癌肝転移巣におけるCD8陽性T細胞数と予後の関連. 第74回日本大腸肛門病学会学術集会（東京）2019年10月11日
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃癌におけるPD-L1発現のCombined positive scoreによる評価の有用性. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃切除の既往が食道亜全摘の短期成績に与える影響の検討. 第73回日本食道学会学術集会（鹿児島）2019年6月6日
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 胃癌におけるPD-L1発現のCombined positive scoreによる評価の有用性. 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yamashita K. 5-FU induces upregulation of PD-L1 expression in gastric cancer. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月27日
15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山下晃平. 切除不能進行胃癌患者におけるCRP-Albumin比（GAR）の意義. 2019JDDW 第17回日本消化器外科学会大会（神戸）2019年11月23日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉. 大腸癌患者におけるカヘキシア関連分子Activin A発現の臨床的意義. 第119回日本外科学会学術総会（大阪）2019年4月20日
17	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉. 大腸癌におけるPNIおよび腫瘍内CD8陽性T細胞と予後の関連. 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月17日
18	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉. 大腸癌における腫瘍内CD3、CD8陽性T細胞の臨床的意義. 第74回大腸肛門病学会学術集会（東京）2019年10月11日
19	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大徳暢哉. 肥満、sarcopenia、全身性炎症反応（PNI）と大腸癌患者の予後の関連. Japan Digestive Disease Week 2018（神戸）2019年11月23日
20	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. 食道癌における術前末梢血リンパ球数・単球数比と予後についての検討. 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
21	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. 進行食道癌に対する食道バイパス術と食道ステント挿入術の比較検討. 第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019年6月7日 パネルディスカッション
22	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. 食道癌における術前補助化学療法と胸腔鏡下食道亜全摘術の短期成績についての検討. 第74回日本消化器外科学会学術総会（東京）2019年7月19日
23	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. 腫瘍先進部におけるPD-1発現は食道癌の予後予測バイオマーカーとなる. 第78回日本癌学会学術総会（京都）2019年9月28日
24	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. Fusobacterium nucleatumの食道癌進展への関与とそのメカニズム：腫瘍免疫、NF-κB経路との関連. 第30回日本消化器癌発生学会総会（横浜）2019年11月7日 シンポジウム
25	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	野元大地. 食道癌切除症例における栄養・炎症指標と予後についての検討. JDDW 2019 KOBE（神戸）2019年11月23日
26	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦. 肝線維化マーカーは大腸癌肝転移に対する肝切除後の予後を予測しうる. 第119回日本外科学会総会（大阪）2019年4月19日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会(つづき)

27	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 食道癌術後合併症予防を目的としたマイクロC0検査の有用性, 第73回日本食道学会学術集会(福岡)2019年6月6日
28	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 当院における肝以外への転移を来した大腸癌患者に対する化学療法及び外科治療の有用性の検討, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月19日
29	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, Investigation of loss-of-function mutations at the RNF43 locus on digestive tumor progression, 第78回日本癌学会(京都)2019年9月27日
30	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, S状結腸癌を合併した直腸NET多臓器転移の1例, 第74回大腸肛門病学会(東京)2019年10月11日
31	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 消化器腫瘍の進行におけるRNF43遺伝子座の機能喪失変異に関する研究, 第30回日本消化器癌発生学会(横浜)2019年11月8日
32	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦, 直腸NETの画像評価と治療成績, 第27回日本消化器関連学会週間(神戸)2019年11月23日
33	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司, 直腸癌の術前栄養学的ならびに免疫学的因子と術後合併症の発症率の解析, 第74回日本消化器外科学会学術総会(東京)2019年7月19日
34	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司, 膵頭十二指腸切除術における術前栄養状態(CONUT score)の手術成績への影響, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月19日
35	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森永剛司, 食道亜全摘術後早期におけるプロカルシトニン測定の意義, 第81回日本臨床外科学会総会(高知)2019年11月14日
36	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	松村和季, 感染性合併症軽減を企図した人工肛門閉鎖クリニカルパスの有用性評価, 第119回日本外科学会学術集会(大阪)2019年4月19日
37	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 膵癌におけるPHGDH発現の臨床的意義, 第119回日本外科学会学術集会(大阪)2019年4月19日
38	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 膵癌進展におけるPHGDH発現とセリン生合成の意義, 第28回日本癌病態治療研究会(埼玉)2019年6月27日
39	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 膵癌進展におけるPHGDH発現とセリン生合成の意義, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月18日
40	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, 癌特異的なセリン飢餓への応答メカニズムの解明, 第7回がんと代謝研究会(宮城)2019年8月1日
41	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美, Clinical impacts of preoperative biliary drainage on severe postoperative complications in pancreaticoduodenectomy, 第31回日本肝胆膵外科学会学術集会(香川)2019年6月13日
42	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄, 血小板低値である肝細胞癌における肝切除術の安全性の検討, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月18日
43	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄, 当院で切除したIPMN症例に対する術前診断と病理組織学検討, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月17日
44	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	上村紀雄, Statin-induced anti-tumor effects targeting a Hippo-pathway in pancreatic cancers, 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月27日
45	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡留一雄, 食道癌における腫瘍由来IL-4高発現症例の予後およびPD-L1/PD-L2発現との関連, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月17日
46	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	岡留一雄, The influence of 5-FU and CDDP treatment on PD-L1 and PD-L2 expression level of esophageal cancer cell, 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月27日
47	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑, 膵癌におけるRhoファミリー関連蛋白ARHGGEF2の予後予測因子としての有効性, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月20日
48	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑, 膵癌の予後改善のためには必要なことは何か-術後5年生存症例からの考察-, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月17日
49	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	中尾陽佑, High expression of ARHGGEF2 is associated with poor prognosis in Patients with Pancreatic Cancer, 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月26日
50	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優, 局所進行尾側膵癌に対する腹腔動脈合併尾側膵切除術(DP-CAR)の有効性の検討, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月19日
51	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優, 広範囲胆管癌における肝臓同時手術(HPD)の治療成績の検討, 第74回日本消化器外科学会総会(東京)2019年7月18日
52	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	北村文優, Identification of aberrant proteins involved in peritoneal dissemination of pancreatic cancer, 第78回日本癌学会学術総会(京都)2019年9月26日
53	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	織田枝里, 当科における女性消化器外科医のキャリア形成に関する現状と今後の課題, 第119回日本外科学会定期学術集会(大阪)2019年4月19日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会(つづき)

54	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	山根大侍, 地方中核病院における膵頭十二指腸切除術の術後成績と合併症を減らすための取り組み, 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月18日
55	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	遊佐俊彦, 肝細胞癌・門脈塞栓症例における機能的肝切除率算出へのE0B-MRIの応用, 第119回日本外科学会定期学術集会（大阪）2019年4月19日
56	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	遊佐俊彦, 肝細胞癌における腫瘍関連好中球およびCD8陽性リンパ球浸潤の局在と予後との関連, 第74回日本消化器外科学会総会（東京）2019年7月19日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	内原智幸: 令和元年度消化器癌発生学会研究奨励賞
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	秋山貴彦: 食道癌術後合併症予防を目的としたマイクロCO検査の有用性, 第73回日本食道学会学術集会 ベストポスター賞
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	伊東山瑠美: 第17回日本消化器外科学会若手奨励賞

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	白尾國昭
事務担当者	新家 聡

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

- ・平成29年度にライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）受講生として登録された学生が、今年の11月に日本医療薬学会のがん専門薬剤師の資格を受験した。
- ・がん看護専門看護師課程（大学院）に2名の学生を受け入れた。
- ・ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）に30名の看護職を受け入れた。
- ・今年度中に事例検討会(3h/回)を6回(5.7.9.11.1.3月)開催予定。
- ・1月29日(水)に大分県下の保健師を対象としたがんプロ教育セミナー「がん医療のいまを知る！」を実施予定。
- ・2月9日(日)に大分県下の看護職・福祉職を対象としたがんプロ教育セミナー「高齢がん患者の医療同意能力のアセスメントと意思決定支援の実際」を実施予定。
- ・2月2日(日)に県民公開講座「がん患者さんと家族の集い」を実施予定。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

## 【多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース】

- ・学生のがん看護専門看護師としてのキャリア形成における6つ（実践、教育、相談、研究、調整、倫理調整）の能力開発につながっている。
- ・29年度入学の学生1名が本年度がん看護専門看護師コースを修了予定である。

## 【ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）】

- ・県民公開講座「がん患者さんと家族の集い」の講演後、参加者から受ける質問や悩みを受講生に還元し、さまざまな治療課程やライフステージに応じたがん医療の理解に役立てている。
- ・事例検討により、受講生の看護アセスメントやコンサルテーション・倫理調整力を高めている。
- ・看護研究により、看護研究方法論の理解や臨床現場での看護研究の活用についての理解が深まり、学会発表に結び付いている。

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

## 【多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）】

- ・本コースでは、本年度2名の学生が入学し、日本看護系大学協議会認定の38単位のがん看護専門看護師コースの教育課程に沿って教育を行っている。

## 【ライフステージに応じたチーム医療人養成コース（インテンシブ）】

- ・事例検討(1.5h)：各回、各施設から事例提供を受け、看護アセスメントやコンサルテーション・倫理調整などの視点でディスカッションを行っている。
- ・看護研究(1.5h)：臨床現場での疑問を看護研究につなげていくプロセスや実際に進めている看護研究の方法論についての検討を行い、研究能力を高めている。

## 【ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）】

- ・ゲノム医療の基礎研究と臨床研究の両者を理解し、新規オーダーメイド医療の開発を企画することができる人材を育成している。また、ゲノム医療の臨床におけるリーダーを育成している。

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・1月29日（水）開催予定の保健師を対象としたがんプロ教育セミナー【がんの発症や転移のメカニズムとがん検診のエビデンス（乳がん）】に参加することで、地域包括ケアの視点でのがん医療の在り方について理解を深める機会としている。
- ・2月9日（日）開催予定のがんプロ教育セミナー【高齢がん患者の医療同意能力のアセスメントと意思決定支援の実際】では、学生がファシリテーターとして参画し、看護アセスメント能力やコンサルテーション能力を高める実践の機会としている。
- ・2月2日（日）開催予定の県民公開講座【がん患者さんと家族の集い】では、講演の後に参加者が演者に質問できる時間を長く取っており、がん患者やその家族の不安や悩みの解決に大いに役立っている。

## ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・1月29日（水）及び2月9日（日）開催予定のがんプロ教育セミナーのチラシを、県内の病院・保健所・市役所・地域包括ケアセンター等に配付している。
- ・2月2日（日）開催予定の県民公開講座の情報を、医師会報や新聞の広告欄、大学のHPに掲載する予定である。

## ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・がん看護専門看護師教育課程での講義を、「がん診療連携拠点病院」に勤務する第1期・第2期のがんプロ修了生が担当している。
- ・がん看護専門看護師教育課程での実習を「がん診療連携拠点病院」で行い、実習指導を第1期・第2期のがんプロ修了生が担当している。

## ⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

- ・高齢がん患者の増加と高齢がん患者の意思決定支援の困難さを視野に入れ、看護師及び福祉職向け教育セミナー（2月9日開催予定）では、高齢がん患者の意思決定支援をテーマにした内容を企画している。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

### 理由・分析等

- ・ゲノム医療研究者養成コースにおいて、新規治療開発を企画できる人材を育成することができなかったため。また、本学で開講している3コースについて、年度により目標とした受講生数を確保していないコースがあるため。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・ゲノム医療研究者養成コースについては、分子標的薬関連の基礎研究部門と臨床研究部門の中から有望な人材を選出し、博士論文のテーマになるような研究を計画的に進めることにより受講生を確保する予定である。また、多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コースについては、まずは受講対象となる大学院生を確保するため、近隣の病院等に複数回、本学の修士課程看護学専攻について説明に行く予定である。

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

学生 の所属 コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース	Sonoda A, Kamiyama N, <u>Ozaka S</u> , Gendo Y, Ozaki T, Hirose H, Noguchi K, Saechue B, Sachi N, Sakai K, Mizukami K, Hidano S, Murakami K, Kobayashi T Oral administration of antibiotics results in fecal occult bleeding due to metabolic disorders and defective proliferation of the gut epithelial cell in mice. <i>Genes Cells</i> , 23(12), 1043-1055, 2018
2 ゲノム医療研究者養成コース	Gendo Y, Matsumoto T, Kamiyama N, Saechue B, Fukuda C, Dewayani A, Hidano S, Noguchi K, Sonoda A, Ozaki T, Sachi N, Hirose H, <u>Ozaka S</u> , Eshita Y, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Yoshimatsu T, Nishida H, Daa T, Yamaoka Y, Murakami K, Kobayashi T Dysbiosis of the Gut Microbiota on the Inflammatory Background due to Lack of Suppressor of Cytokine Signalling-1 in Mice.
3 ゲノム医療研究者養成コース	Mizukami K, Matsunari O, Ogawa R, Hirashita Y, Okamoto K, Fukuda K, Sonoda A, Akiyama H, <u>Ozaka S</u> , Kawahara Y, Okimoto T, Kodama M, Murakami K. Examine the Availability and Safety of Mucosal Cutting Biopsy Technique for Diagnosis of Gastric Submucosal Tumor. <i>Gastroenterol Res Pract</i> , 2019(Article ID 3121695), 2019, May
4 ゲノム医療研究者養成コース	Noguchi K, Kamiyama N, Hidano S, Gendo Y, Sonoda A, Ozaki T, Hirose H, Sachi N, Saechue B, <u>Ozaka S</u> , Eshita Y, Mizukami K, Kawano K, Kobayashi T. Autoimmune sialadenitis is associated with the upregulation of chemokine/chemokine receptor pairs in T cell-specific TRAF6-deficient mice. <i>Biochemical and biophysical communication</i> 504(1) 245-250, 2018
5 ゲノム医療研究者養成コース	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Saga K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Ozeki Y, Masaki T, Inomata M, Improvement in non-alcoholic fatty liver disease after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese obese patients. <i>Ann Gastroenterol Surg</i> , 3(3)285-290, 2019
6 ゲノム医療研究者養成コース	Tada K, Iwashita Y, Shiraiwa K, Uchida H, Oshima Y, Sato Y, <u>Nakanuma H</u> , Hirashita T, Masuda T, Endo Y, Takeuchi Y, Ohta M, Itoh H, Inomata M, Pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of 5-Fluorouracil administration after major hepatectomy in a rat model. <i>Cancer Chemother Pharmacol</i> , in press
7 ゲノム医療研究者養成コース	Hirashita T, Iwashita Y, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Saga K, Masuda T, Endo Y, Ohta M, Matsumoto T, Inomata M, Pylorus-preserving pancreatoduodenectomy preserving right gastroepiploic vessels following proximal gastrectomy: report of two cases. <i>Surg Case Rep</i> , 5(1)online, 2019
8 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Ogawa K</u> , Toujigamori M, Inomata M, Venous malformation of the lung in an infant. <i>J Pediatr Surg Case Rep</i> , 47, in press, 2019
9 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Abe M</u> , Osoegawa A, Karashima T, Takumi Y, Kobayashi R, Hashimoto T, Miyawaki M, Takeuchi H, Okamoto T, Sugio K, Erlotinib and bevacizumab combination therapy for afatinibrefractory leptomeningeal carcinomatosis from EGFR-mutated lung cancer. <i>International Cancer Conference Journal</i> , 8(2), 81-85, 2019
10 ゲノム医療研究者養成コース	Takeuchi H, <u>Abe M</u> , Takumi Y, Hashimoto T, Miyawaki M, Okamoto T, Sugio K. Elevated red cell distribution width to platelet count ratio predicts poor prognosis in patients with breast cancer. <i>Sci Rep</i> , 9(1), 3033, 2019
11 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Abe M</u> , Osoegawa A, Miyawaki M, Noda D, Karashima T, Takumi Y, Hashimoto T, Okamoto T, Daa T, Sugio K. Ciliated muconodular papillary tumor of the lung: a case report and literature review. (アクセプト済、Publish待ちです)
12 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Sumimoto T</u> , <u>Nakahara R</u> , Sato Y, Itoh H. A quantitative method for the determination of bosutinib in human plasma using high-performance liquid chromatography and ultraviolet detection. <i>J Clin Lab Anal</i> , 32, 1-3, 2018
13 ゲノム医療研究者養成コース	Sato Y, <u>Sumimoto T</u> , Tsushita H, <u>Nakahara R</u> , Matsumoto H, Itoh H. Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial. <i>Pharmazie</i> , 8, 486-488, 2018
14 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	<u>Sumimoto T</u> , <u>Nakahara R</u> , Sato Y, Itoh H. A quantitative method for the determination of bosutinib in human plasma using high-performance liquid chromatography and ultraviolet detection. <i>J Clin Lab Anal</i> , 32, 1-3, 2018
15 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	Sato Y, <u>Sumimoto T</u> , Tsushita H, <u>Nakahara R</u> , Matsumoto H, Itoh H. Filgrastim biosimilar for neutropenia in gynecological cancer patients receiving chemotherapy: a prospective, single-center, non-randomized, open trial. <i>Pharmazie</i> , 8, 486-488, 2018
16 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	Suzuki Y, <u>Ono H</u> , Tanaka R, Sato F, Sato Y, Ohno K, Mimata H, Itoh H. Recovery of OATP1B Activity after Living Kidney Transplantation in Patients with End-Stage Renal Disease. <i>Pharm Res</i> , 36(4), 59, 2019

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 和文誌

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース	安東 大智, 山村 亮太, 五十川 達哉, 田崎 亮子, <u>小坂 聡太郎</u> 症例報告 血清Na <sup>+</sup> -Cl <sup>-</sup> の経時的観察が有用であった偽アルドステロン症の1例 日本病院薬剤師会雑誌 = Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists 55(6) 663-667 2019年6月
2 ゲノム医療研究者養成コース	岩下幸雄, 平下禎二郎, 増田崇, 遠藤裕一, 多田和裕, 中沼寛明, 猪股雅史, 安全な腹腔鏡下胆摘のための手術難度評価法, 臨床外科, 74 (2) 172-176, 2019
3 ゲノム医療研究者養成コース	岩下幸雄, 遠藤裕一, 増田崇, 平下禎二郎, 中沼寛明, 多田和裕, 猪股雅史, ラパコレにおける術中合併症と回避法, 消化器外科, 42 (4) 395-401, 2019
4 ゲノム医療研究者養成コース	太田正之, 遠藤裕一, 多田和裕, 中沼寛明, 平下禎二郎, 増田崇司, 岩下幸雄, 猪股雅史, 外科治療, 臨床と研究, 96 (6) 62-66, 2019
5 ゲノム医療研究者養成コース	藤永淳郎, 内田博喜, 岩下幸雄, 板井勇介, 太田正之, 猪股雅史, 腹腔鏡下左肝切除を施行した肝粘液性嚢胞腫瘍の1例, 日本臨床外科学会学会雑誌, 80 (6) , 1212-1217, 2019
6 ゲノム医療研究者養成コース	藤永淳郎, 平下禎二郎, 板井勇介, 中沼寛明, 多田和裕, 増田崇, 遠藤裕一, 岩下幸雄, 太田正之, 猪股雅史, FDG-PETで集積亢進を示す傍大動脈リンパ節腫大を伴う膵管内乳頭粘膜液性腺癌の1例, 日本消化器病学会雑誌, 116(9), 747-753, 2019
7 ゲノム医療研究者養成コース	内匠 陽平, 辛島 高志, 安部 美幸, 宮脇 美千代, 駄阿 勉, 杉尾 賢二, 肺原発ホジキンリンパ腫の1切除例, 肺癌, in press.
8 ゲノム医療研究者養成コース	亀井進太郎, 佐藤雄己, 炭本隆宏, 津下遥香, 田中遼大, 伊東弘樹, 糖尿病患者における配合剤に関する意識調査, 診療と新薬, 55, 862-867, 2018
9 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	柳井 優花, 高野 久仁子, 長松 顕太郎, 坂田 真規, 片山 映樹, 吉田 奈津美, 本田 周平, 河野 利恵, 緒方 正男, 森田 泰介, 西田 欣広, 檜原 久司, 白尾 國昭, 妊娠19週に診断し, 妊娠継続のもと化学療法を行い分娩に至った急性骨髄性白血病, 臨床血液 in press
10 ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	亀井進太郎, 佐藤雄己, 炭本隆宏, 津下遥香, 田中遼大, 伊東弘樹, 糖尿病患者における配合剤に関する意識調査, 診療と新薬, 55, 862-867, 2018

## ○ 国際学会

学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース	○木本喬博, 園田光, 勝田泰志郎, 秋山英俊, <u>小坂聡太郎</u> , 川原義成, 平下有香, 福田健介, 松成修, 岡本和久, 小川竜, 水上一弘, 沖本忠義, 児玉雅明, 村上和成, 石井一志, 平塚考宏 腸閉塞を契機に診断された上部空腸サイトメガロウイルス腸炎の1例 (専修医発表) 【第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会】 令和元年5月24日(金)~25日(土)、福岡県、アクロス福岡
2 ゲノム医療研究者養成コース	○ <u>小坂聡太郎</u> , 園田光, 有木晋平, 神山長慶, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, 飛彈野真也, 尾崎貴士, 広瀬晴奈, 佐知望美, 曾我泰裕, 後藤美月, 水上一弘, 村上和成, 小林隆志. 抗生物質起因性大腸炎マウスモデルに対する柴芩湯の保護効果の解明. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
3 ゲノム医療研究者養成コース	○Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shimpei ariki, Nozomi Sachi, Mizuki Goto, Yasuhiro Soga, Benjawan Saechue, Takashi Kobayashi. TRAF6 regulation in Th9 cell responses to tumor growth. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
4 ゲノム医療研究者養成コース	○Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shimpei ariki, Nozomi Sachi, Mizuki Goto, Yasuhiro Soga, Khaledul Faisal, Rajashree Chowdhury, Md. Anik Ashfaq Khan, Faria Hossain, Prakash Ghosh, Tahmina Shirin, Dinesh Mondal, Takashi Kobayashi. Development of a rapid, simple and portable reverse transcription loop-mediated isothermal amplification method for Chikungunya virus. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
5 ゲノム医療研究者養成コース	○後藤美月, 広瀬晴奈, 神山長慶, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, 飛彈野真也, <u>小坂聡太郎</u> , 有木晋平, 曾我泰裕, 小林隆志. 白癬菌増殖抑制効果を有するわさびの機能分子の探索. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
6 ゲノム医療研究者養成コース	○曾我泰裕, 神山長慶, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, 飛彈野真也, 佐知望美, <u>小坂聡太郎</u> , 有木晋平, 後藤美月, 小林隆志. TRAF6を介した炎症シグナルを定量化するレポーターアッセイ系の樹立と炎症を抑制する新規分子の探索. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
7 ゲノム医療研究者養成コース	○神山長慶, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, 飛彈野真也, 佐知望美, <u>小坂聡太郎</u> , 有木晋平, 曾我泰裕, 後藤美月, 鈴木亮介, 小林隆志. ジカウイルスアフリカ株はアジア株に比べて宿主細胞への侵入能が高く、EAEを増悪させる. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
8 ゲノム医療研究者養成コース	○佐知望美, 福田千瑛, 飛彈野真也, 神山長慶, Benjawan Saechue, <u>小坂聡太郎</u> , Astri Dewayani, 有木晋平, 曾我泰裕, 後藤美月, 小林隆志. ゲノム編集マウスを用いたケモカインCCL20の腸管組織における生理的機能の解析. 【第42回日本分子生物学会年会】 2019年12月3日~6日、福岡県
9 ゲノム医療研究者養成コース	○Takashi Kobayashi, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shinpei Arik, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto. Role of SLPI in the pathogenesis of inflammatory bowel disease. 【第48回日本免疫学会学術集会】 2019年12月11日~13日、静岡県
10 ゲノム医療研究者養成コース	○Shinya Hidano, <u>Sotaro Ozaka</u> , Shinpei Arik, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Nozomi Sachi, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto. TRAF6 deficiency in dendritic cells exacerbates the disease severity of Toxoplasma gondii infection in mice. 【第48回日本免疫学会学術集会】 2019年12月11日~13日、静岡県
11 ゲノム医療研究者養成コース	<u>Ogawa K</u> , Toujigamori M, Ohno Y, Inomata M, Plumonary hemangioma in an infant -report of a case-, 52nd Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons (New Zealand) 2019. 3. 10-14.
12 ゲノム医療研究者養成コース	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Inomata M, Mechanism of NAFLD improvement after sleeve gastrectomy, 24th IFSO (MADRID) 2019. 9. 3-7



## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国際学会(つづき)

13	ゲノム医療研究者養成コース	Iwashita Y, Tada T, <u>Nakanuma H</u> , <u>Fujinaga A</u> , Masuda T, Hirashita T, Endo Y, Takeuchi Y, Inomata M, Tips and Techniques for Difficult Laparoscopic Cholecystectomy, Tips and Techniques in Laparoscopic Surgery (Bangkok) 2019. 10. 3-5
14	ゲノム医療研究者養成コース	Endo Y, Ohta M, <u>Nakanuma H</u> , Tada K, Masuda T, Hirashita T, Iwashita Y, Inomata M, Choices of potimal linear staplers in laparoscopic sleeve gastrectomy, IFSO-APC 2019, (Guangzhou, China) 2019. 3. 21-23
15	ゲノム医療研究者養成コース	Sumimoto T, Nakahara R, Suzuki Y, Sato Y, Ogata M, Itoh H, Sensitive and high-throughput UPLC-MS/MS method for simultaneous quantification of imatinib, N-desmethyl-imatinib, nilotinib, dasatinib, bosutinib, ponatinib and N-desmethyl-ponatinib in human plasma, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018. 9
16	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	<u>Shiraiwa K</u> , Suzuki Y, Tanaka K, Kawano M, Iwasaki T, Tanaka R, Sato Y, Tsumura H, Itoh H. Quantification of pazopanib in plasma of patients with soft tissue tumors using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018. 9
17	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	Sumimoto T, Nakahara R, Suzuki Y, Sato Y, Ogata M, Itoh H, Sensitive and high-throughput UPLC-MS/MS method for simultaneous quantification of imatinib, N-desmethyl-imatinib, nilotinib, dasatinib, bosutinib, ponatinib and N-desmethyl-ponatinib in human plasma, 16th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Brisbane, Australia) 2018. 9

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ゲノム医療研究者養成コース	中沼寛明、平下禎二郎、岩下幸雄、多田和裕、増田崇、遠藤裕一、太田正之、猪股雅史、胆道出血を伴ったicteric type HCCの1例、第56回九州外科学会第56回九州小児外科学会第55回九州内分秘外科学会（鹿児島）2019. 5. 17-18
2	ゲノム医療研究者養成コース	白坂美哲、赤木智徳、 <u>板井重介</u> 、 <u>小川雄大</u> 、原貴生、平塚孝宏、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、當ヶヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント留置の治療成績、JDDW 2019 KOBE（神戸）2019. 11. 21-24
3	ゲノム医療研究者養成コース	<u>板井重介</u> 、上田貴威、原貴生、平塚孝宏、鈴木浩輔、赤木智徳、柴田智隆、當ヶヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、術前診断が困難であった胃粘膜下腫瘍の1例 A case of gastric submucosal tumor with difficulty in preoperative diagnosis, 第91回日本胃癌学会総会（静岡）2019. 2. 27-3. 1
4	ゲノム医療研究者養成コース	藤永淳郎、錦耕平、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、當ヶヶ盛学、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、Jackhammer esophagusを伴った横隔膜上食道憩室の1例、第73回日本食道学会学術集会（福岡）2019. 6. 6-7
5	ゲノム医療研究者養成コース	小川雄大、當ヶヶ盛学、平塚孝宏、赤木智徳、鈴木浩輔、柴田智隆、上田貴威、白下英史、衛藤剛、白石憲男、猪股雅史、重症心身障害児に対する腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術（LAPEG）の工夫、8th Reduced Port Surgery Forum（東京）2019. 8. 2-3
6	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、辛島 高志、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者におけるヘモグロビン／血小板数の予後因子としての有用性、第119回 日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月20日
7	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、肺腺癌切除例におけるEGFR遺伝子変異の画像的特徴と予後、第119回 日本外科学会定期学術集会（大阪府大阪市）、2019年4月18日
8	ゲノム医療研究者養成コース	辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、中縦隔原発のカルチノイド腫瘍の1切除例、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
9	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、野田 大樹、辛島 高志、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、超高齢者肺癌のⅡ期以上の臨床的検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
10	ゲノム医療研究者養成コース	<u>内匠 陽平</u> 、辛島 高志、安部 美幸、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、重症筋無力症合併胸腺腫に対する拡大胸腺摘出術の検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
11	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、岡本 龍郎、杉尾 賢二、CTでの肺結節良悪性の鑑別～悪性が疑われたが手術直前で覆った症例の検討～、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
12	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、転移性肺腫瘍に対する肺動脈壁合併肺葉切除および心膜パッチ再建、第36回日本呼吸器外科学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年5月16日
13	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、阿南 健太郎、岡本 龍郎、杉尾 賢二、EWS症例の検討～苦手からの脱却を目指して～、第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会（東京都文京区）、2019年7月4日
14	ゲノム医療研究者養成コース	武内 秀也、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、橋本 崇史、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者における術前Albumin/CRP値の臨床的意義、第27回日本乳癌学会総会（東京都新宿区）、2019年7月12日
15	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、 <u>内匠 陽平</u> 、安部 美幸、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、気管分岐部直上腫瘍の気管切除再建、第52回日本胸部外科学会九州地方会総会（宮崎県宮崎市）、2019年8月29日
16	ゲノム医療研究者養成コース	辛島 高志、野田 大樹、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、阿南 健太郎、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、当科で経験した肺切除後肺軸捻転の4例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年11月1日
17	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、肺尖部壁側胸膜由来の胸壁腫瘍の切除例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会（京都府京都市）、2019年10月31日
18	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、EGFR 陽性肺腺癌の進化的発育における遺伝子変化、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月6日
19	ゲノム医療研究者養成コース	阿南 健太郎、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、 <u>内匠 陽平</u> 、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、当院における肺多形癌手術例の検討、第60回日本肺癌学会学術集会（大阪府大阪市）、2019年12月7日

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会(つづき)

20	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、気管腫瘍に対する外科治療の検討、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月7日
21	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、三浦 真弘、濱田 文彦、杉尾 賢二、乳腺センチネルリンパ節血管分布様式からの癌血行性転移機構の再考-解剖学的解析-、第33回大分乳がんのつどい(大分県大分市)、2019年2月16日
22	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、三浦 真弘、腋窩リンパ系に関する臨床解剖学的検討-血管支配から考える臨床諸問題-、第124回日本解剖学会全国学術集会(新潟県新潟市)、2019年3月28日
23	ゲノム医療研究者養成コース	武内 秀也、安部 美幸、辛島 高志、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者におけるヘモグロビン/血小板数の予後因子としての有用性、第119回日本外科学会定期学術集会(大阪府大阪市)、2019年4月20日
24	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、肺腺癌切除例におけるEGFR遺伝子変異癌の画像的特徴と予後、第119回日本外科学会定期学術集会(大阪府大阪市)、2019年4月18日
25	ゲノム医療研究者養成コース	辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、中縦隔原発のカルチノイド腫瘍の1切除例、第36回日本呼吸器外科学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年5月16日
26	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、野田 大樹、辛島 高志、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、超高齢者肺癌のⅡ期以上の臨床的検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年5月16日
27	ゲノム医療研究者養成コース	内匠 陽平、辛島 高志、安部 美幸、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、重症筋無力症合併胸腺腫に対する拡大胸腺摘出術の検討、第36回日本呼吸器外科学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年5月16日
28	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、岡本 龍郎、杉尾 賢二、CTでの肺結節良悪性の鑑別～悪性が疑われたが手術直前で覆った症例の検討～、第36回日本呼吸器外科学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年5月16日
29	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、転移性肺腫瘍に対する肺動脈壁合併肺葉切除および心膜パッチ再建、第36回日本呼吸器外科学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年5月16日
30	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、阿南 健太郎、岡本 龍郎、杉尾 賢二、EWS症例の検討～苦手からの脱却を目指して～、第42回日本呼吸器内視鏡学会学術集会(東京都文京区)、2019年7月4日
31	ゲノム医療研究者養成コース	武内 秀也、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、乳癌患者における術前Albumin/CRP値の臨床的意義、第27回日本乳癌学会総会(東京都新宿区)、2019年7月12日
32	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、内匠 陽平、安部 美幸、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、気管分岐部直上腫瘍の気管切除再建、第52回日本胸部外科学会九州地方会総会(宮崎県宮崎市)、2019年8月29日
33	ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸、三浦 真弘、濱田 文彦、杉尾 賢二、肺癌転移にかかわる肺門・縦隔リンパ系の再考-臨床解剖学的検討-、第23回臨床解剖研究会(東京都文京区)、2019年10月5日
34	ゲノム医療研究者養成コース	三浦 真弘、安部 美幸、広背筋弁作成で犠牲となる前鋸筋筋枝の解剖学的特徴、第23回臨床解剖研究会(東京都文京区)、2019年10月5日
35	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、気管腫瘍に対する外科治療の検討、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月7日
36	ゲノム医療研究者養成コース	野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、肺尖部壁側胸膜由来の胸壁腫瘍の切除例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会(京都府京都市)、2019年10月31日
37	ゲノム医療研究者養成コース	辛島 高志、野田 大樹、安部 美幸、内匠 陽平、阿南 健太郎、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、当科で経験した肺切除後肺軸捻転の4例、第72回日本胸部外科学会定期学術集会(京都府京都市)、2019年11月1日
38	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、阿南 健太郎、岡本 龍郎、杉尾 賢二、気道出血の治療戦略、第71回日本気管食道学会総会ならびに学術講演会(東京都港区)、2018年11月28日
39	ゲノム医療研究者養成コース	岡本 龍郎、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、杉尾 賢二、EGFR陽性肺腺癌の進化的発育における遺伝子変化、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月6日
40	ゲノム医療研究者養成コース	宮脇 美千代、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、阿南 健太郎、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、EGFR-TKIの実臨床における使用状況と成績、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月7日
41	ゲノム医療研究者養成コース	阿南 健太郎、野田 大樹、辛島 高志、安部 美幸、内匠 陽平、宮脇 美千代、岡本 龍郎、杉尾 賢二、当院における肺多形癌手術例の検討、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月7日
42	ゲノム医療研究者養成コース	辛島 高志、野田 大樹、安部 美幸、阿南 健太郎、宮脇 美千代、武内 秀也、岡本 龍郎、杉尾 賢二、ゲフィチニブ内服中に脈絡膜単発転移を認めたStage IV肺腺癌の1例、第60回日本肺癌学会学術集会(大阪府大阪市)、2019年12月7日
43	ゲノム医療研究者養成コース	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS法による5種のBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本TDM学会・学術大会(福岡)2018年5月26日-27日
44	ゲノム医療研究者養成コース	炭本隆宏、中原良介、鈴木陽介、田中遼大、佐藤雄己、緒方正男、伊東弘樹、UPLC-MS/MS法によるBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬および活性代謝物の高感度同時測定法の確立と臨床応用、第35回日本薬学会九州支部大会(福岡)2018年11月17日-18日
45	ゲノム医療研究者養成コース	池内真代、久我修二、漣田今日子、小河和也、佐藤亮介、秋吉健介、塩月一英、井原健二、感染を契機に急性腎障害を発症し、薬剤の関与が疑われた2症例、第108回日本小児科学会大分地方会2019年度総会(大分)2019年7月7日
46	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース(インテンシブ)	Nagamatsu K, Takano K, Yanai Y, Katayama O, Honda S, Yoshida N, Kawano R, Ogata M, Shirao K. Successful treatment of disseminated adenovirus infection with cidofovir following stem cell transplantation. 第30回日本血液学会学術集会(東京)2019年10月11日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ○ 国内学会(つづき)

47	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	豊福美香, CVポートからの造影CT時の造影剤の飛散を防止する手順変更に関する活動報告～造影剤から輸液につなぎかえるタイミングの検証から～ 第14回 医療と質の安全学会(京都)2019年11月28～30日
48	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	後藤伴美, 炭本隆宏, 鈴木芳, 井彰香, 田中望洋, 佐藤雄己, 奥田健太郎, 犀川哲典, 伊東弘樹, 大学病院と地域病院との情報共有による病病連携～緩和ケアチームが介入したがん患者をとおして～, 第12回日本緩和医療学会年会(東京)2018年5月25日-27日
49	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	炭本隆宏, 中原良介, 鈴木陽介, 佐藤雄己, 緒方正男, 伊東弘樹, UPLC-MS/MS法による5種のBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬の高感度同時測定法の確立と臨床応用, 第35回日本TDM学会・学術大会(福岡)2018年5月26日-27日
50	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	衛藤大輝, 金子哲也, 田中遼大, 甲斐真也, 鈴木陽介, 佐藤雄己, 大地嘉史, 安田則久, 後藤孝治, 伊東弘樹, 集中治療部患者を対象としたポリコゾール経管投与による薬物動態解析, 医療薬学フォーラム2018(東京)2018年6月23日-24日
51	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	田中遼大, 鈴木陽介, 岩男元志, 橋永一彦, 佐藤雄己, 平松和史, 門田淳一, 伊東弘樹, リネゾリドによる血小板減少症と低Na血症の関連性の検討, MRSAフォーラム2018(東京)2018年7月7日
52	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	Motoshi Iwao, Yosuke Suzuki, Kyota Ianaka, Teruhide Koyama, Takeshi Nakata, Kohei Aoki, Akihiro Fukuda, Yuhki Sato, Naoya Fukunaga, Fuminori Sato, Hirotaka Shibata, Hiromitsu Mimata, Hiroki Itoh, Sensitive and selective quantification of mid-regional pro-adrenomedullin in the human plasma by performing ultra-performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry 第12回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム(北海道)2018年9月15日-16日
53	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	小野優子, 衛藤大輝, 佐藤雄己, 伊東弘樹, 点眼容器への満足度および患者の点眼手技の現状に関するアンケート調査, 第79回九州山口薬学大会(大分)2018年11月3日-4日
54	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	白岩健, 小野寛之, 田中遼大, 佐藤雄己, 伊東弘樹, S-1および放射線併用療法施行中に血漿中フェニトインおよびフェノバルビタール濃度の上昇を認めた1症例, 第79回九州山口薬学大会(大分)2018年11月3日-4日
55	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	炭本隆宏, 中原良介, 鈴木陽介, 田中遼大, 佐藤雄己, 緒方正男, 伊東弘樹, UPLC-MS/MS法によるBCR-ABLチロシンキナーゼ阻害薬および活性代謝物の高感度同時測定法の確立と臨床応用, 第35回日本薬学会九州支部大会(福岡)2018年11月17日-18日
56	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	白岩健, 鈴木陽介, 岩男元志, 田中遼大, 佐藤雄己, 岩下幸雄, 内田博喜, 多田和裕, 猪股雅史, 伊東弘樹, 大腸癌肝転移に対する肝切除後UFT/LV併用療法における5-FU・ウラシル・テガフルの3成分同時定量法確立とその臨床応用, 第28回日本医療薬学会年会(兵庫)2018年11月23日-25日
57	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	小野寛之, 鈴木陽介, 田中遼大, 佐藤文憲, 佐藤雄己, 三股浩光, 大野恵子, 伊東弘樹, Coproporphyrin-Iを指標とした生体腎移植後のOATP1B活性の評価, 第28回日本医療薬学会年会(兵庫)2018年11月23日-25日
58	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	佐藤雄己, 鈴木芳, 中原良介, 伊東弘樹, 術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における静脈血栓塞栓症の発症要因の検討, 第28回日本医療薬学会年会(兵庫)2018年11月23日-25日
59	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	篠原沙織, 炭本隆宏, 徳永英治, 秦吉孝, 佐藤雄己, 伊東弘樹, 注射剤調製アシスト機の開発と使用評価, 日本薬学会第139年会(千葉)2019年3月20日-23日
60	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	龍田涼佑, 佐藤雄己, 伊東弘樹, アプレピタント投与下における抗がん剤投与による消化器機能異常と消化管ペプチドとの関連性の検討, 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019(北海道)2019年3月23日-24日
61	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	鈴木芳, 中原良介, 佐藤雄己, 伊東弘樹, 術後補助化学療法を施行した卵巣がん患者における静脈血栓塞栓症の発症要因の検討, 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2019(北海道)2019年3月23日-24日
62	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	大腸癌肝転移に対する肝切除がUFT/LV併用療法時の薬物動態に与える影響 白岩健, 鈴木陽介, 岩男元志, 田中遼大, 佐藤雄己, 龍田涼佑, 伊東弘樹 第36回日本薬学会九州支部大会(長崎)(2019.11)
63	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	UPLC-MS/MSを用いた遊離型パゾパニブ濃度の高感度定量法の確立 松本麻美, 白岩健, 鈴木陽介, 田中遼大, 佐藤雄己, 伊東弘樹 第29回日本医療薬学会年会(福岡)(2019.11)
64	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	UPLC-MS/MSを用いたハイスルーブットかつ高感度なレンパチニブ定量法の開発 末繁嘉朗, 白岩健, 田中遼大, 遠藤美月, 本田浩一, 佐藤雄己, 清家正隆, 村上和成, 伊東弘樹 第36回日本TDM学会・学術大会(東京)2019.5
65	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース (インテンシブ)	大分大学医学部附属病院における経口抗がん剤の血漿中濃度測定およびその臨床応用(シンポジウム) 白岩健 第36回日本TDM学会・学術大会(東京)2019.5

## ○ その他(受賞等)

学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1 ゲノム医療研究者養成コース	藤永淳郎, 第229回例会優秀演題 『経過観察中に増大傾向を認め腹腔鏡下左肝切除を施行した肝粘性囊胞腫瘍の1例』
2 ゲノム医療研究者養成コース	安部 美幸: 第124回日本解剖学会全国学術集会、肉眼解剖学トラベルアワード献体協会賞

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	細川 歩
事務担当者	野村 あゆみ

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標 1～3 に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌などの代表的な腫瘍）について13回（26コマ）開催。

多様な新ニーズに対応する専門医療人の養成やライフステージに応じたがん対策を推進する多職種の人材育成を目的とし、医師、薬剤師、看護師、事務、学生、検査技師など延べ333名の多職種の医療人が参加した。

また、ATLの症例提示及びHTLV-I関連疾患に関する基礎研究についてのカンファレンス（HTLV-Iカンファレンス）を、血液内科、皮膚科、病理、腫瘍生化学の持ち回りにより7回開催した。ATLの臨床に携わる血液内科、皮膚科医師、病理医及びHTLV-I関連疾患の基礎研究を行う研究者など多職種の医療人が参加した。また、2019年11月に鹿児島大学と合同の血液疾患研究会を開催し、宮崎大学からはATLの予後に関わる因子について報告した。

## 【がん看護】

がん看護専門看護師養成コースは、新たに38単位の専門看護師教育課程として認定を受ける予定であり、現在は26単位からの移行期にある。宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容でカリキュラムを組み、今後に向けて、積極的に広報活動を行い、受入目標人数達成に向けた取組を行っている。

多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する（達成目標 1）とともに、宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色に挙げられている「がん看護研究の推進を図る」ことを目標に、令和元年度は、九州大学より生物統計家である岸本淳司先生を招聘し、「看護研究における統計解析のいろは」という演題で、観察的疫学研究報告の質改善（STROBE）のための声明について講演いただいた。本講演には、看護師、教員、事務、学生など37名の多職種の医療人等が参加した。

また、宮崎県は総人口に占める高齢化率は31.1%、後期高齢化率16.2%（2017年）であり、国内でも高齢化率の高い地域である。ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う（達成目標 2）ことが求められているが、宮崎県では、特に高齢化に伴い、認知症を合併したがん患者や、看取り期における高齢がん患者の意思決定支援策の検討が求められている。公益社団法人認知症の人と家族の会代表理事鈴木森男先生、宮崎市福祉部介護保険課事業所指導室主任技師溝口由香里先生をお迎えして、『「お互いさま」と「希望」をつなぐ人財育成』という演題で、認知症患者ががん治療を受けるケース例として講演いただく予定である。なお、本講演は、日本死の臨床研究会・九州支部 第46回研究集会の共催で開催する。がん看護専門看護師養成コース担当教員は、The European Organisation for Research and Treatment of Cancer (EORTC) の高齢者用QOL尺度；Elderly Cancer Patientsを翻訳した。今後は、がん高齢者のQuality of life (QOL) 研究に活用し、ライフステージに応じた（高齢者）がん対策におけるケア評価への活用が期待される。

さらに、ゲノム医療や小児・希少がんに対する情報を積極的に収集する（達成目標 3）ために、日本癌治療学会へ参加して多職種連携などの視点から看護師の役割を再考することで学びを深化させることができた。今後、日本がん看護学会へ参加により、最新のがん看護領域の知見を得る予定である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

今年度の宮崎大学がんセミナーでは、総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌などの代表的な腫瘍）について13回（26コマ）開催し、昨年度同様多職種（延べ333名）が参加したが、セミナー全体を通しての参加人数は少なかった。また少数ではあるが医学生が参加が得られた。講義の内容について、非常に良かった191名（57%）、良かった104名（31%）と良かった以上が88%を占め、総じて好評であったと考える。

HTLV-Iカンファレンスでは、臨床系、病理は症例提示と検討、考察を行った。腫瘍生化学講座からはHTLV-I発症に関わる背景の検討がなされ、ATLを臨床及び基礎研究の両方から理解を深めることができ有用であった。

#### 【がん看護】

令和2年度に38単位の専門看護師教育課程の申請書類を提出予定であり、宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容を再検討している。特に、教育の特色に挙げている「医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みを学ぶ」という点では、宮崎県の医療事情を踏まえて目標が達成できる実習場所の新規開拓を行い、カリキュラムを編成しているところである。

さらに、宮崎大学の「がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース」の教育の特色に挙げている「がん看護研究の推進を図る」ために、「看護研究における統計解析のいろは」という演題で、観察的疫学研究報告の質改善（STROBE）のための声明の解説と、研究における質問で最も多い「サンプルサイズの設定」のその具体的な方法について講演いただいた。アンケート結果は、「内容がとてもためになるものであり、もっと統計を勉強した後に、もう一度受けたいと思った。」など、理解するには難しいが、今後自己研鑽していく必要性を感じたという意見が多かった。学生の参加もあり、「卒論で初めて論文を書くので、講演の初めの話は特に生かせる内容であり、とてもありがたかった。」などの意見もあり、看護研究の質の向上につながることを期待したい。

がんゲノム医療の推進や小児・希少がんの対象者へのケアにあたり、看護職へのゲノム医療や小児・希少がんに関する知識・実践力の向上が急務である。昨年に引き続き学会へ参加することによって、看護学生、大学院生やがん医療に携わる一般看護職への教育基盤の構築につなげることができた。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

第3期がんプロにおいて大学院コースの受け入れはない。  
インテンシブコースの受講者の中からライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース希望者がみられており、今後も教育コースの充実をはかる予定である。  
がん看護専門看護師養成コースは、新たに38単位の専門看護師教育課程として認定を受ける予定であり、現在は26単位からの移行期にある。今後に向けて、積極的に広報活動を行い、受入目標人数達成に向けた取組を行っている。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

宮崎大学がんセミナー：総論（がん薬物療法、放射線療法、がんの病理学、精神腫瘍学、緩和医療など）、各論（胃癌、大腸癌、乳癌などの代表的な腫瘍）について13回（26コマ）開催。延べ333名の多職種の医療人が参加（医師、看護師、薬剤師、事務、学生、検査技師）し、がんの標準治療から終末期の緩和ケアを含めたがん診療について理解を深めることができたと考える。

HTLV-IカンファレンスではATLの臨床に携わる血液内科、皮膚科医師、病理医及びHTLV-I関連疾患の基礎研究を行う研究者など多職種の医療人が参加し、ATLを臨床及び基礎研究の両方から理解を深めることができ有用であった。また、鹿児島大学と合同の血液疾患研究会（2019年11月開催）では30名前後の参加者があり、活発な討議が行われ好評であった。

#### 【がん看護】

講演会「看護研究における統計解析のいろは」（講師：岸本淳司氏 九州大学病院 ARO次世代医療センター・准教授）：宮崎県内の施設から37名が参加（看護師、教員、事務、学生、他）。

講演会『「お互いさま」と「希望」をつなぐ人財育成』（講師：鈴木森男氏 公益社団法人認知症の人と家族の会代表理事、溝口由香里氏 宮崎市福祉部介護保険課事業所指導室主任技師）実施予定である。

「観察的疫学研究報告の質改善（STROBE）のための声明」の解説および、サンプルサイズの設定の演習は、エビデンスの高いがんの研究を推進するために、観察研究の基礎となるものである。

また、高齢化に伴い認知症患者ががんになるケースも問題となっている。

講演会で、多職種の方に参加頂いたことは、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。講演会を継続して実施していくことで、大学院生の確保にもつながる。地域がん医療の充実・向上、地域連携を目指し、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師間の情報共有、自己研鑽に努め、地域に根ざした活動ができるがん看護専門看護師を養成する。

③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

がん看護専門看護師養成を機に設立した「がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内および実施報告を掲載した。（九州がんプロホームページ上にも掲載いただいた。）

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

学生が不在であるため学生が直接大学関連病院と関わることはなかったが、附属病院で開催される緩和ケア症例検討会ならびに附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会にがんプロ担当教員が継続して参加することにより、教員のFDを図るとともに、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

今年度講演会として、「看護研究における統計解析のいろは」を開催し、今後は『「お互いさま」と「希望」をつなぐ人財育成』をテーマに開催予定である。宮崎県では、特に高齢化に伴い、認知症を合併したがん患者や、看取り期における高齢がん患者の意思決定支援策の検討が求められている。参加者について、看護師のみならず介護福祉士、医師、医療ソーシャルワーカー、事務、看護学生と多様な医療・福祉関連職種の方の参加見込まれており、ライフステージ領域（特に高齢者）における問題点を共有する機会となり、多職種人材養成に繋がることが期待される。

また、がん看護専門看護師養成コース担当教員が翻訳したEORTC高齢者用QOL尺度の活用は、ライフステージ（高齢者）と踏まえたQOL研究への貢献が期待される。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

#### 理由・分析等

宮崎大学がんセミナーに関して、セミナーを通しての参加人数が少なかったが、大学院コースの希望者がみられている。

がん看護専門看護師養成コースは、新たに38単位の専門看護師教育課程として認定を受ける予定であり、現在は26単位からの移行期にある。29～31年度と大学院コースの受入れを行っていないが、講演会で、多職種の方に参加頂いたことは、地域で直に患者と接する方々の知識・意欲の向上を図ることができ、がんプロの存在の周知の機会にも繋がった。

「看護研究における統計解析のいろは」『「お互いさま」と「希望」をつなぐ人財育成』など講演会を継続して実施していくことで、大学院生の確保にもつながる。また、がん看護専門看護師養成機関としての認定期間更新手続きにあたり教育提供体制の改善も図ったことから、いつでも学生を受け入れることのできる環境を万全に整えることができた。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

宮崎大学がんセミナーに関し、セミナー全体を通しての参加人数が少なかったため、継続的な参加が増えるよう開催通知など学内、学外(他施設の医療従事者等)へ周知していく。今年度同様に最新知識や技術を取り入れ、講義内容の充実を図ると同時に大学院コース希望者が増えるように配慮する。

また、国内でも高齢化率の高い宮崎県において、がんと共に生きる高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、“老年期”というライフステージに焦点をあてた多職種人材養成が必要であり、今年度に引き続き、高齢者に焦点をあて、多職種を対象とした講演会の企画運営を行う。

がん看護専門看護師養成コースは、新たに38単位の専門看護師教育課程として認定を受ける予定であり、カリキュラムの作成を進める。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	宮崎大学
-----	------

## ○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	米澤玲美、細川歩、逸脱症例から学ぶがん薬物療法 標準治療の実践 再発大腸がん 勝俣範之編、月刊薬事 61（10）、株式会社じほう、48-50、2019。

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	米澤玲美、細川歩、中島孝治、田原良博、山嶋友実、宮後冨、松本英丈、芦塚伸也、稲津東彦、河上洋、当院における切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ療法の現状、第114回日本消化器病学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
2	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	田原良博、細川歩、中島孝治、米澤瑛美、坂元一樹、山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、黒木大介、野田貴穂、鈴木翔、久保田良政、松本英丈、芦塚伸也、安倍弘生、三池忠、坂哲臣、山本章二郎、稲津東彦、河上洋、当科における肺癌化学療法の実況（FOLFIRINOX療法とGEM/nab-PTX療法について）、第114回日本消化器病学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
3	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	黒木大介、山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、松本英丈、芦塚伸也、中島孝治、稲津東彦、河上洋、免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象（irAE）大腸炎の1例、第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
4	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	山嶋友実、宮後冨、米澤玲美、黒木大介、松本英丈、中島孝治、芦塚伸也、稲津東彦、鈴木翔、田原良博、三池忠、山本章二郎、安倍弘生、久保田良政、坂哲臣、河上洋、全周性の局所遺残再発食道癌に対して光線力学的療法（PDT）を行った2例、第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（宮崎）2019年11月9日
5	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（ATL）	上運天綾子、ATL-PDXモデルを用いたバイオマーカーの検討、第6回日本HTLV-1学会学術集会（宮崎）2019年8月23～25日
6	成人T細胞白血病専門医療人養成コース（ATL）	関根雅明、宮崎県内におけるATLの現状について、第6回日本HTLV-1学会学術集会（宮崎）2019年8月23～25日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	医歯学総合研究科 臨床腫瘍学講座 上野真一
事務担当者	医歯学総合研究科等 学務課医歯学大学院係 山口聡

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標 1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

**達成目標 1：**先端的がん医療コース大学院生 2 名と包括的がん医療コース 2 名を確保し、ともに分子生物学的成果に基づいた個別医療の基礎ならびに臨床応用の学習を図った。また薬物療法を中心とした集学的がん医療の中でそれを実践するための学習を行った。放射線看護専門コース大学院生 1 名が入学し、がん専門看護師による「放射線看護専門実践特論」等を受講している。鹿児島大学病院は、本年度にがんゲノム医療拠点病院に指定された。当院・当教室主催で週 2 回のがんゲノム医療エキスパートパネルを開催して、毎年ゲノム医療実習等が開催され、大学院生も参加している。また最新 鹿児島県のゲノム医療に関する市民公開講座を開催した。

**達成目標 2：**毎週 1 回の化学療法カンファレンスの中で、とくに AYA 世代と高齢者に関するがん治療の面からの問題点についてミニレクチャーを開催した。とくに就労支援の取組みや妊孕性温存の考え方や他県の取組みを紹介した。さらに、毎月 1 回行われる病院規模の Cancer Board を開催し、その中で「妊娠継続と抗がん剤治療」「遺伝性腫瘍」などについて講演した。これらのカンファレンスには、若手医師、看護師、薬剤師が参加し、各職種の面からの討論も行われた。

**達成目標 3：**国際学会（アメリカ血液学会）参加や日本がん治療学会・日本臨床腫瘍学会の講演により、ゲノム医療や小児・希少がんに対する新規分子標的治療薬（FGFR 阻害薬、TRK 阻害薬、IDH 阻害薬）、免疫チェックポイント阻害薬のバイオマーカー（クロマチンリモデリング因子）、CAR-T 療法に関する諸外国の情報収集を行った。これらはカンファレンスを通して教員と大学院生の情報共有を図った。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

## ※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

がんゲノム医療拠点病院に指定された当院では、主催する週 2 回のエキスパートパネルが開催されている。がん薬物療法専門医、がん治療認定医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、病理専門医、がんゲノム研究者、バイオインフォマティクス専門家が参加し、がん推奨治療を決定している。大学院生に対するがん遺伝子パネル検査を利用した Druggable 遺伝子異常の考え方、遺伝子プロファイルに基づく推奨治療の決定について教育を施した。加えて週 1 回の化学療法カンファレンスの中で、大学院生に対するさまざまな面からのキャリア教育（集学的治療、がん薬物療法の実際と問題点、緩和ケアの知識など）が行われた。さらに月 1 回の病院規模の Cancer Board を開催し、診療科横断的な総合的判断に基づく推奨治療の決定について教育を施した。

インテンシブコースでは、全 4 日間のがんゲノム講習会を開催し、がんゲノムのための病理検体取り扱い方法、DNA 抽出と Library 作成と実技講習、NGS 取扱いと解析方法レクチャー、結果の解釈とエキスパートパネル、ゲノム医療と小児・希少がんについて教育を施した。

放射線看護専門コースでは、「臨床放射線医学」や「放射線看護専門実践特論」などその領域分野の専門家を招聘し、教育を実施している。



## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

（大学院コース）必要な単位修得とともに、2つのコースで必要なカンファレンス参加（エキスパートパネル、化学療法カンファレンス、Cancer Board）と病院実習に参加した。放射線看護専門コースでは、1年次に履修すべき25単位を修得し、来年度の専門実習に向けた準備に取り組んでいる。

（インテンシブコース）2月に 全4日間の講習会 **がんゲノム講習会**を開催する。

1日目 がんゲノムのための病理検体取り扱い方法とは 2日目 DNA抽出とLibrary作成、実技講習

3日目 NGS取扱いと結果の解釈 4日目 ゲノム医療と小児・希少がん

（インテンシブ **がん専門薬剤師養成コース**）4名の受講者を得、e-ラーニングによる研修を行った。また研修会に合わせて**受講者の施設を大学病院指導者3名が訪問**し、がん化学療法に係る施設の管理・運用状況を確認し、意見交換を行う。受講者は研修会で演者の1名を務めることとなっている。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

がんプロ学生にゲノム医療に基づいたがん治療への取り組みと今後の課題を明確にするために、毎年「鹿児島がんゲノム学術セミナー」を鹿児島大学大学院 腫瘍学講座 病理学分野と共催で開催している。

12月20日 第3回鹿児島がんゲノム学術セミナー

講演 「Cancer Genome Profiling testを紐解く ～形態学的がん診断からの飛躍～」

慶應義塾大学医学部腫瘍センター特任助教 四十物 絵理子 先生

また、がんプロ学生にとって、がん遺伝子パネル検査が急速に臨床導入されて来ている状況に対応する、患者及び家族等に対する説明事項や留意事項を明確にすることが喫緊の課題である。下記の講演会を当教室主催で開催する。

1月23日講演 「がん遺伝子パネル検査における二次的所見の取り扱い」

京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 臨床看護学講座 特定教授 西垣 昌和 先生

放射線看護専門コースでは、福島県立医科大学のがん専門看護師の三浦浅子先生を招聘し、「放射線看護専門実践特論」の講義を行ってもらい、患者のがん放射線療法の治療計画についてアセスメントし、照射部位、照射角度、照射線量からその有害事象の発症を予測し、症状マネージメント、さらに患者自ら症状をセルフマネージメントできるように支援できるような教育プログラムの企画を行っている。

（インテンシブ **がん専門薬剤師養成コース**）

受講者の施設ならびに離島にて研修会を開催する。**鹿児島県ならびに宮崎県の病院薬剤師会と共催し、病院薬剤師だけでなく近隣の薬局薬剤師、薬学部にも声掛け**を行い参加者を募り、情報共有を図る予定である。

2月18日 第28回鹿児島県病院薬剤師会がん薬物療法セミナー（宮崎地区）

2月20日 第29回鹿児島県病院薬剤師会がん薬物療法セミナー（大隅地区）

3月 3日 第30回鹿児島県病院薬剤師会がん薬物療法セミナー（奄美地区）

また、鹿児島市でも研修会を開催し、がんゲノム医療に係る鹿児島大学の役割を広く周知する予定である。

2月13日 第27回鹿児島県病院薬剤師会がん薬物療法セミナー（鹿児島地区）

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）※別表「数値実績一覧」も参照して記述

毎年、本講座と病院腫瘍センターとの共催で「市民公開講座」を企画・実施しています。

令和元年度は、がんゲノム医療拠点病院 指定記念 「がんについて学ぼう」 ～最新 鹿児島県のがんゲノム医療～を開催し、123名が参加しました。

講演1 「がん患者としてがんゲノム医療に望むこと」

NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾

講演2 「鹿児島県のがん医療体制と新しいがんゲノム医療の位置づけ」

鹿児島大学病院 腫瘍センター長 上野真一



本年、9月福島県で開催された日本放射線看護学会（参加者400名程度）において、交流集会「放射線診療における困難事例への看護ケアに関する検討会」を企画した。話題提供者は、国立病院機構長崎医療センター がん放射線療法認定看護師 大石景子氏、コメンテーター 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 がん放射線療法認定看護師 緑川弘子氏であった。参加者は、外来、病棟において放射線看護を実践している看護師30名程度であり、がん放射線療法の質向上となる有意義な事例検討となった。

#### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

鹿児島県ではがん診療の均てん化、向上に資する取り組みとして全地域拠点病院・県指定病院、合計23病院を集めての4部門会（がん診療企画部門・がん登録部門・がん相談連携部門・がん緩和部門）合同研修会を年2回行っています。

- 8月31日 講演「がんゲノム医療と遺伝医療の連携」  
京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻  
健康管理学講座 医療倫理学分野・遺伝医療学分野 小杉 眞司 先生
- 3月14日 講演「今、学校で始まる「がん教育」」  
東京女子医科大学 がんセンター長 林 和彦 先生(開催予定)

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

病院規模のCancer Board（1/月）を運営し、その中では、緩和ケアチームや病棟看護師にも参加を要請し、治療方針のみではなく難治性苦痛緩和に対する討論も行った。さらにライフステージ（AYA世代など）に応じたがん医療のための専門的レクチュアを設けた。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

#### 理由・分析等

大学病院でのがんゲノム医療立ち上げと共に、大学院生への必要な教育（ゲノム医療の基礎と応用、必要な体制や人材、アノテーション・キュレーションの理解など）を行った。社会人・検査技師等を対象に、がんゲノム医療やとくに稀少がん等のインテンシブコースを設けた。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、ゲノム医療実習（臨床、解析、遺伝カウンセリング）を進める。ライフステージに応じたがん医療に関して、インテンシブコースを開講する。海外の先端的医療に関して、さらに情報収集を促進する。来年度は、福島県立医科大学病院における専門実習により、教育効果を上げるために、最先端の知識等が得られるように、講師との連携を密にしていきたい。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

## ■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	鹿児島大学
-----	-------

## ○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ3期 包括的地域がん医療コース	保坂優斗, 石神純也, 恵浩一, 瀬戸山徹郎, 夏越祥次, 上腸間膜静脈血栓症にヘパリン起因性血小板減少症を併発した1例. 鹿児島大学医学雑誌, 71 (1), 2019.
2	がんプロ3期 包括的地域がん医療コース	保坂優斗, 盛真一郎, 喜多芳昭一, 馬場研二, 田辺寛, 夏越祥次, 側方発育型腫瘍の形態で偽浸潤を呈した直腸腺腫の1例. 鹿児島大学医学雑誌, 72 (1), 2020.

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ3期 包括的地域がん医療コース	保坂優斗, 安藤慶, 樋渡清司, 三枝伸二, 夏越祥次, Meckel 憩室の大腸ヘルニア嵌頓を腹腔鏡補助下大腸ヘルニア修復術で修復した1例, 第56回九州外科学会(鹿児島市), 2019年5月17-18日
2	がんプロ3期 包括的地域がん医療コース	保坂優斗, 安藤慶, 樋渡清司, 三枝伸二, 夏越祥次, Littreヘルニアに腹腔鏡補助下大腸ヘルニア修復術を行った1例, 第32回日本内視鏡外科学会総会(横浜市), 2019年12月5-7日

※以下は鹿児島大学参考資料。内部評価・外部評価の対象となる実績には計上しない。(第2期がんプロコース在籍者から提出された実績)

## ○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	<u>Hirano I</u> , Okumura H, Maeda S, Shimada M, Imakiire A, Makisumi K, Higashi M, Natsugoe S, Vascular Leiomyosarcoma Originating From the Right Ovarian Vein: A Case Report and Literature Review. Surg Case Rep, 5 (1), 120, 2019

## ○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	平野拓郎, 石神純也, 柳田茂寛, 恵浩一, 橋口真征, 小倉芳人, 辺木文平, 夏越祥次, 急性虫垂炎に対する待機, 非待機手術の検討. 鹿児島大学医学雑誌, 第71巻 1-3号 Page15-21, 2019.8月
2	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	平野拓郎, 奥村浩, 島田真理緒, 今給黎亮, 東美智代, 牧角寛郎, 小腸間膜原発デスマイド腫瘍の1切除例. 鹿児島県臨外誌, 31, 1-3, 2019

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	平野拓郎, 奥村浩, 前田哲, 島田麻里緒, 今給黎亮, 牧角寛郎, 夏越祥次, 卵巢静脈原発平滑筋肉腫の1切除例, 第56回九州外科学会(鹿児島市), 2019年5月18日
2	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	平野拓郎, 奥村浩, 前田哲, 島田麻里緒, 今給黎亮, 牧角寛郎, 東美智代, 夏越祥次, 卵巢静脈原発平滑筋肉腫の1例および過去報告16症例の文献的考察, 第74回日本消化器外科学会総会(東京都), 2019年7月18日
3	がんプロ2期 僻地・離島医療専門医療人養成コース	平野拓郎, 川越浩輔, 橋口真征, 衣斐勝彦, 石神純也, 瀬戸山徹郎, 夏越祥次, 術前化学放射線療法の追加によりpCRが得られた大型3型胃癌の1例, 第49回胃外科・術後障害研究会(鹿児島市), 2019年11月1日

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	福島 卓也
事務担当者	源河 崇・加藤 愛美

## 1. 概要

## 達成目標 ※工程表の内容を転記（編集不可）

- 達成目標 1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。
- 達成目標 2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。
- 達成目標 3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 達成目標に対する今年度の実績 ※達成目標1～3に触れながら記載。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

達成目標1に関しては、これまでの専門看護師の養成に加えて、2019年10月 がん薬物療法専門医養成コースに1名の大学院生が入学した。

達成目標2に関して

## 【がん薬物療法専門医コース】

緩和医療に携わる専門看護師の養成に加え、がん薬物療法専門医養成コースではがん薬物療法専門医の下での外来化学療法室実習に加え、緩和医療チームでの1ヵ月間の実習を必須として組み込んだ。琉球大学医学部附属病院緩和ケアチームは、本年度ESMO-DCの認証を受け、palliative careの専門家によるトレーニングが可能となっている。

## 【がん看護専門看護師コース】

平成30年度より、保健学研究科においてがん看護専門看護師コース学生1名を受け入れ、令和元年度修了予定であった。しかしながら、学生の一身上の都合により、本プログラム受講の継続が困難となったため、途中退学となった。そのため、がん看護専門看護師としての能力（卓越した看護実践・相談・倫理調整・教育・研究等の役割が遂行できる高度実践看護師の能力）を身に付けるという目標達成ができなかった。

## 【緩和ケアエキスパートナース養成コース】

毎年5名の受入目標を設けているが、平成30年度は9名、令和元年度は8名の受講がある。

達成目標3に関して、沖縄特有の希少難治性疾患の生体試料と情報を収集する、「沖縄バイオインフォメーションバンク」を設立し、研究のための基盤が構築された。さらに小児科教室はIRUDに参画して、希少疾患研究のための体制が整っている。本年度がん薬物療法専門医養成コースに入学した大学院生は小児科所属で、これら生体試料・情報を用いた小児・希少がんに対する研究・情報発信のための体制を構築している。コースの学生ではないが、コーディネーターの教室の大学院生は、沖縄バイオインフォメーションバンクの試料・情報を用いて希少疾患である成人T細胞白血病・リンパ腫の発症予測のバイオマーカーを見出し、61th Annual Meeting American Society of Hematologyで口演発表を行った。ゲノム医療に関しては、2020年1月24日国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学 分野長 片岡圭亮先生による講演会を開催予定である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

※適宜、学生のキャリア教育、キャリア形成の点にも触れながら記載すること。必要に応じて、図や写真等を追加することも可能。

【がん薬物療法専門医コース】

がん薬物療法専門医養成コースに2019年10月1名の学生を迎えたところで、成果が得られるのはこれからである。がん診療センターとの連携により、がん薬物療法専門医が運営している外来化学療法室実習に加え、ESMO-DC承認を得た緩和ケアチームでの緩和ケア実習を提供する。

【がん看護専門看護師コース】

本プログラムは、琉球大学保健学研究科博士前期課程 保健学専攻にて本コース（がん看護専門看護師教育課程26単位）を設け、養成を行っている。2021年度以降は38単位の教育課程に移行し、養成の継続を計画している。

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）】

本プログラムは、がん診療連携拠点病院や基幹病院などで、将来的にがん看護領域の認定看護師及び専門看護師となる人材育成を目指し、緩和ケアが様々な場面において切れ目なく提供されるための知識・技術、及びエンド・オブ・ライフ・ケアに必須とされる知識・技術（疼痛・症状緩和・マネジメント、意思決定支援、臨死期にある患者、家族へのケア等）の強化を目的として、ELNEC-J（The End-of-Life Nursing Education Consortium日本語版）教育プログラムを提供している。本プログラム受講後、受講したことをどのように実践に活用したのかについて課題を提示し、6か月間の取り組みに関する発表を受講生に課している。

過去のインテンシブコース修了生では、がん看護専門看護師（1名）、緩和ケア認定看護師（4名）、がん性疼痛看護認定看護師（1名）、化学療法看護認定看護師（1名）の資格取得者も誕生したが、H30年度の修了生においても、9名中2名が、H31.4月 緩和ケア認定看護師教育課程へ進学した。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

【がん薬物療法専門医コース】

第3期がんプロのe-learningが一部公開されたことに合わせて、2019年10月大学院コースであるがん薬物療法専門医養成コースに大学院生1名入学した。

【がん看護専門看護師コース】

前述したとおり、受講生が都合により退学となったため、がん看護専門看護師の養成には至っていない。

【緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）】

H30年度修了生9名中2名が、H31.4月 緩和ケア認定看護師教育課程へ進学し、認定看護師資格取得を目指している。その他の受講生においても、受講6ヶ月後の課題発表において、看護管理者、看護スタッフとして、緩和ケア及びがん看護実践の取り組みに関する発表があり、現場でのリーダー的役割を果たしていたことが確認できた。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

※別表「数値実績一覧」も参照して記述。他大学のモデルとなるような内容があれば特に触れること。

- ・ゲノム医療に関しては固形腫瘍の領域が先行している。一方血液悪性腫瘍の領域では遺伝子パネルの検討を開始した段階である。血液腫瘍領域のゲノム医療の現状について情報を得るため、令和2年1月24日（金）18：00～20：00国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学 分野長 片岡圭亮先生を講師に、「造血器腫瘍におけるゲノム医療」のタイトルで講演会を開催予定である。
- ・令和2年1月24日（金）17：00～18：40 がん看護セミナー「働き盛り世代のがんサバイバー支援 がん看護相談支援の実践から～」をテーマに、神奈川県立がんセンター 清水奈緒美氏（副看護局長／がん看護専門看護師）を招聘し、開催予定である。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む） ※別表「数値実績一覧」も参照して記述

- ・「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」ホームページに講演会等の周知を行い、実施報告も予定している。
- ・医学部及び附属病院のホームページで講演会等の周知を行った。
- ・がん看護専門看護師養成及び緩和ケアエキスパートナース養成のために、従来まで、附属病院をはじめ沖縄県内の多くの総合病院との連携協働をとってきているので、学生募集や看護セミナー実施の際には、広く案内広報を行っている。
- ・研究室（琉球大学医学部成人・がん看護学）のHPにも適宜、情報を発信している。

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院 地域医療部 中島信久診療教授は緩和ケアチームの責任者で、がん薬物療法専門医養成コース学生は緩和ケアチームで1ヵ月の実習を必須としている。また同部 高橋秀徳特命講師はがん薬物療法専門医で、外来化学療法室での実習について協力を得ている。
- ・緩和ケアエキスパートナース養成コース(インテンシブコース)においては、がん診療連携拠点病院や地域医療支援病院に所属するがん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師を非常勤講師として派遣要請し、各施設における緩和ケアやがん看護実践の取り組みについても紹介いただいている。

⑤ライフステージ領域における取り組み ※プラン採択時、『ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。』とのコメントが付いていることから、ライフステージに関して各大学で取り組んだ内容があれば、本欄に特に詳しく記載願います。最終的に、九州全体の取り組みを整理して自己評価を実施します。

特になし

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

#### 理由・分析等

昨年度の評価で課題とされたがん薬物療法専門医養成コースに学生1名を迎え入れることが出来た。今年度の目標の2名までもう少しである。また、緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）では平成30年度に引き続き受入目標人数を達成している。

一方、看護専門看護師コース受講生の退学に伴い、受入目標人数（1名）が達成できていない。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・がん薬物療法専門医養成コースは、医学研究科 大学院担当教授である学務委員長と連携して、がんプロフェッショナルプログラムに関するパンフレットを募集要項と一緒に配布しており、様々な機会を捉えリクルート活動を実施し、がん薬物療法専門医を目指す医師の獲得を目指す。
- ・がん看護専門看護師コースは受入目標人数（1名）が達成できていないことから、本学科卒業生やがん診療連携拠点病院（琉球大学医学部附属病院）や地域でがん診療を提供している病院において、がん看護専門看護師の養成について広くリクルートを実施したいと考える。

**「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧**

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

※開催予定のものは、見込み数または不明（－）と記入。

No.	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			R1実績					
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	参加者数			参加大学数	
							※自動	（学内） ※連携大学数	（学外）		うち拠点外大学数
1	九州がんプロ	外部評価委員による「3年目中間評価会」（2.17開催）	1	50	10	1	30	27	3	14	3
2		大分spaカンファ・九州がんプロ合同研修会	-	-	-	1	34	28	6	5	1
3		働く世代をがんから守るがん検診受診促進大会（後援）	-	-	-	1	446	1	445	1	0
4		AYA教育セミナー（共催）	-	-	-	1	58	32	26	6	1
5		北信がんプロ市民公開講座（共催）	-	-	-	1	42	1	41	5	4
6		胃がんキャラバン（共催）	-	-	-	1	30	1	29	1	0
7	九州大学	がんゲノム講習会	-	-	-	5	472	454	18	6	0
8		九州大学病院がんセミナー（共催）	-	-	-	3	160	121	39	1	0
9		市民公開講座「患者さんと考える明日への医療」（共催）	-	-	-	1	136	20	116	1	0
10		九州放射線治療セミナー	-	-	-	1	91	45	46	7	2
11		先端医用量子線技術科学コース講演会（1月・2月開催）	-	-	-	2	100	80	20	1	0
12	福岡大学	がんセミナー	2	60	1	0	0	0	0	0	0
13	久留米大学	家族に向けての支援教育セミナー	1	25	4	1	14	5	9	7	7
14		連携支援セミナー（2月予定）	1	25	4	1	20	20	0	1	0
15		希少がんに関するセミナー・シンポジウム（化学療法・緩和医療・がん関係）（2月予定）	1	10	1	1	20	20	0	1	0
16	佐賀大学	がんプロセミナー	2	60	1	2	78	74	4	1	0

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

※開催予定のものは、見込み数または不明（－）と記入。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			R1実績					
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	参加者数			参加大学数	
							※自動	（学内） ※連携大 学数	（学外）		うち拠点 外大学数
17	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会(2月開催予定)	1	50	5	1	-	-	-	-	-
18		長崎大学ゲノム医療推進会議 キックオフ講演会	1	50	5	1	99	92	7	1	0
19		厚労省健康局 がん・疾病対策課 佐々木昌弘課長 講演会	-	-	-	1	92	87	5	1	0
20		長崎大学がん診療連携拠点病院研修会（共催）	-	-	-	3	302	133	169	1	0
21		長崎大学病院県民公開講座「がんについてよく知ろう」	-	-	-	1	251	21	230	1	0
22	宮崎大学	がんセミナー	-	-	-	13	333	266	67	1	0
23		がんプロ講演会『看護研究における統計解析のいろは』	-	-	-	1	37	28	9	2	1
24		がんプロ講演会『「お互いさま」と「希望」をつなぐ人財育成』（2.29実施予定）	-	-	-	1	-	-	-	-	-
25	熊本大学	消化器がんに関するセミナー	4	160	1	6	192	170	22	6	0
26		がん薬物療法に関するセミナー	2	80	1	5	80	80	0	5	0
27	大分大学	がんプロセミナー事例検討会	-	-	-	6	104	0	104	1	0
28		がんプロ教育セミナー	-	-	-	2	170	20	150	1	0
29		県民公開講座	-	-	-	1	35	5	30	1	0
30	鹿児島大学	がん薬物療法セミナー(宮崎、熊本、大隅、鹿児島地区)	4	400	1	4	400	100	300	4	0
31		4部門（がん診療企画部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、緩和ケア部門）合同研修会	-	-	-	1	189	53	136	1	0
32		市民公開講座「がんについて学ぼう」最新鹿児島県のがんゲノム医療	-	-	-	1	123	45	78	1	0
33		がんエクソーム解析セミナー	-	-	-	2	70	66	4	2	0
34		腫瘍免疫カンファレンス	-	-	-	1	55	45	10	1	0
35		鹿児島がんゲノムセミナー	-	-	-	1	30	15	15	1	0



「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

※開催予定のものは、見込み数または不明（－）と記入。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	目標（工程表から転記）			R1実績					
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	参加者数			参加大学数	
							※自動	(学内) ※連携大学数	(学外)	うち拠点外大学数	
36	琉球大学	セミナー「島嶼沖縄に求められるがん治療と看護（仮）」	3	30	1	0	0	0	0	0	0
37		がん看護セミナー（R2. 1. 24開催予定）	-	-	-	1	-	-	-	-	-
38		令和元年度 新ニーズに対応する九州がんプロ養成ラン講演会（R2. 1. 24開催予定）	-	-	-	1	-	-	-	-	-
合計（自動計算）			23	1,000	35	77	4,293	2,155	2,138	89	19

**「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧**

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

	大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
		実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1	九州がんプロ	1	92	1	34	47	115
2	九州大学	0	0	68	232	2	0
3	福岡大学	0	0	0	0	18	0
4	久留米大学	0	0	0	0	3	0
5	佐賀大学	0	0	0	0	0	0
6	長崎大学	0	0	0	0	不明	0
7	熊本大学	0	0	0	0	9	0
8	大分大学	0	0	0	0	0	0
9	宮崎大学	0	0	0	0	3	0
10	鹿児島大学	0	0	0	0	2	0
11	琉球大学	0	0	0	0	2	0
合計（自動計算）		1	92	69	266	86	115

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

## ■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

・「受入目標」欄は修正不可。  
・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	R1				
					受入目標	受入実績	修了者数		
1	九州大学	ゲノム	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	医師	7	6	0		
2		希少がん・小児がん	希少がん・放射線治療学コース	医師	1	0	0		
3		希少がん・小児がん	小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース	医師	2	0	0		
4		ライフステージ	先端医用量子線技術科学コース	医学物理士	8	12	13		
5		希少がん・小児がん	がん専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	2	2	1		
6		希少がん・小児がん	がん研究薬剤師コース博士課程	薬剤師	2	2	0		
7	福岡大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コース	医師	2	0	0		
8	久留米大学	希少がん・小児がん	希少がん診療養成コース	医師	1	0	0		
9		ライフステージ	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	2	1	0		
10	佐賀大学	ライフステージ	統合的地域がん治療専門医育成コース	医師	2	1	0		
11		ライフステージ	統合的地域がん医療人育成プログラム	医師以外	1	0	0		
12	長崎大学	ゲノム	ゲノム医療人材養成コース	医師	2	2	0		
13				ライフステージ	包括的がん専門医療人養成コース	歯科医師	0	0	0
						薬剤師	0	0	0
14		ライフステージ	がん看護専門看護師養成コース	看護師	1	1	0		
15	熊本大学	ゲノム	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	医師	10	0	8		
16	大分大学	ゲノム	ゲノム医療研究者養成コース（博士課程）	医師	5	5	0		
17		ライフステージ	多様なニーズに貢献するがん看護専門看護師コース（修士課程）	看護師	2	2	2		
18	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた全人的統合的がん治療専門医育成コース	医師	1	0	0		
19		ライフステージ	がんと共に生きることを支えるがん看護専門看護師養成コース	看護師	2	0	0		
20	鹿児島大学	ゲノム	先端的がん医療コース	医師	2	3	0		
21		ライフステージ	包括的地域がん医療コース	医師	2	0	0		
22		ライフステージ	放射線看護専門コース	看護師	1	1	0		
23	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・がん看護専門看護師養成コース	看護師	1	0	0		
24		希少がん・小児がん	希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成・がん薬物療法専門医コース	医師	2	1	0		
医師 小計（自動計算）					42	20	8		
歯科医師 小計（自動計算）					1	1	0		
薬剤師 小計（自動計算）					2	2	0		
看護師 小計（自動計算）					9	5	2		
その他 小計（自動計算）					11	14	14		
合計（自動計算）					65	42	24		

**「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧**

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

・「受入目標」欄は修正不可。  
・「養成分野」、「教育プログラム・コース名称」に修正が出る場合は、事前に九州がんプロ事務局あてご相談ください（文部科学省への手続きが必要な場合があります）。

	大学名	養成分野	教育プログラム・コース名称	対象職種	R1		
					受入目標	受入実績	修了者数
1	福岡大学	ライフステージ	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師	5	89	89
				看護師	20	42	42
				薬剤師	10	45	45
				その他（理学療法士等）	5	32	32
2	久留米大学	ライフステージ	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	2	0	0
3	熊本大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	2	0	0
4	大分大学	ライフステージ	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	20	30	61
5	宮崎大学	ライフステージ	ライフステージに応じた地域がん総合治療医育成コース	医師	2	3	2
		希少がん・小児がん	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	医師	2	3	1
7	鹿児島大学	ライフステージ	それぞれのライフステージに即したがん患者ケアプログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）	5	5	5
		希少がん・小児がん	希少がんおよび肉腫の集学的治療プログラム	その他（医師、歯科医師、薬剤師、看護師等）	3	3	3
		その他	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	8	4	4
10	琉球大学	ライフステージ	ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成・緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	5	9	9
				医師 小計（自動計算）	9	95	92
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0	0
				薬剤師 小計（自動計算）	20	49	49
				看護師 小計（自動計算）	25	51	51
				その他 小計（自動計算）	35	70	101
				合計（自動計算）	89	265	293

「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
 数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成する専門分野	受験・合格・資格取得者数						
				取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	R1					
					受験者	(内数)旧が んプロからの 移行者	合格者	(内数)旧が んプロからの 移行者	資格取得者	(内数)旧が んプロからの 移行者
計				23	3	19	2	16	0	
1	九州大学大学院医学系学府医学専攻	ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース	臨床腫瘍学	日本外科学会専門医	1	0	1	0	0	0
2				肝臓専門医（結果はR2年2月予定）	1	0	0	0	0	0
3	佐賀大学大学院医学系研究科博士課程医科学専攻	統合的地域がん治療専門医育成コース	ライフステージ	日本血液学会血液専門医	1	0	1	0	1	0
4	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻	包括的がん専門医療人養成コース	がん医療	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医	1	0	1	0	1	0
5				がん医療／放射線治療学	放射線科専門医	1	0	1	0	1
6		ゲノム医療人材養成コース	臨床腫瘍学	日本内科学会総合内科専門医	1	0	1	0	1	0
7				日本肝臓学会認定肝臓専門医	1	0	1	0	1	0
8	熊本大学大学院医学教育部医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	がん外科治療	外科専門医	3	1	3	1	2	0
9				消化器病専門医	3	1	2	0	2	0
10				がん治療認定医	9	1	8	1	7	0
11	大分大学大学院医学系研究科	ライフステージに応じたチーム医療人養成コース(インテンシブ)		日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1	0	0	0	0	0



文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』  
採択事業 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン

令和元年度 内部評価報告書

---

発行 令和2（2020）年2月  
編集・発行 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 事業運営推進協議会  
事務局：九州がんプロ事務局（九州大学医系学部等事務部）  
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp  
<http://www.k-ganpro.com/>